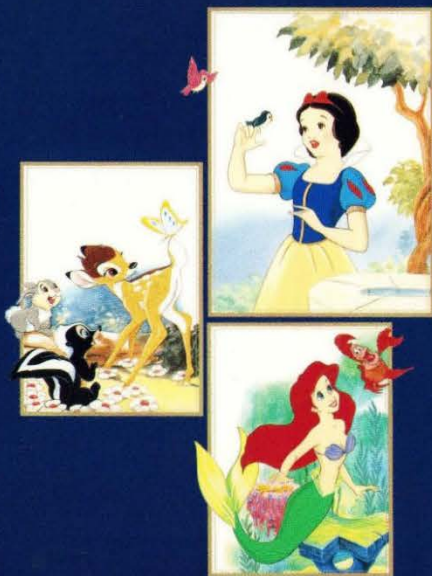
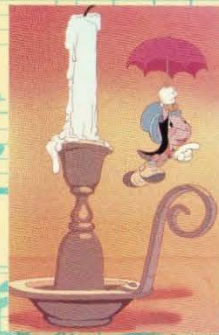






Disney's MUSIC OF DREAMS

CONTENTS

ミッキー・マウスと共に	2
音楽とアニメが手を組んだ	6
長編アニメーションはミュージカルの世界	8
音楽アニメの金字塔「ファンタジア」	12
実写映画とアニメーション	14
ディズニー・ルネッサンス	17
劇映画の世界	22
TV映画の世界	24
ディズニー・テーマパークの世界	26
NEWディズニー	30

監修：柳生すみまろ

監修：境沢あづさ

カバーデザイン：高畑ゆみ(ペーパーランド)・奥田芳江

本文デザイン：音名保金

ミッキーと共に

「I only hope We never
lose sight of one thing
……that this was all
started by a Mouse」
Walt Disney

「ただ一つ私が希望することは、(劇では一匹のネズミによって
始まった)という事を私たちが決して忘れないという事です」

— ウォルト・ディズニー

ここでいう《一匹のネズミ》とは、もちろん我らのミッキー
マウスです。

ミッキーは今から65年前の1928年に登場し、たちまち人気
者となってしまいました。デビュー作「蒸気船ウィリー」は「世
界初のトーキー・アニメ」でありました。

トーキーという、当時の革命的な新技術(たとえていえば1930
年代の日本で、それまで音声しか存在していなかった放送に、
TVという、新しいタイプの放送が出現した驚きに似ています)

を、ミッキーは最初にマスター
したことで有名です。

技術的なことは重要ですが、
それが全部ではありません。ウ
ォルト・ディズニーが創り出し
たミッキー・マウスというキャラ
クターが、ずば抜けた存在であ
ったため、当時の人々はショッ
クを受けたと同時に熱狂したの
です。

そして、今なお私たちを魅
了してやまないミッキーのキャラクターというのは、絶えずウ
ォルト・ディズニーから生まれたものです。若いマシなウォ
ルトのタレント性、あるいはセンスの結晶であり、文字通り彼の
分身でありました。ウォルト・ディズニーはアニメーターであ
りながら、格段に優れたプロデューサーでもあったのです。し
かし、彼の本性はエンターテイナー(人々に楽しみと喜びを与
える人)であることでした。紙に描いた絵で、人々を楽しませ
るまえに、話術とジェスチャーでストーリーを演じ、人々を
充分に納得させる力量を持った人でした。

だからこそ、《たった一匹のネズミ》はあれほど大
成功を収めた。役柄をこなして、レパートリーを拡大し、か
つ仲間(敵役たち)をつぎつぎとふやし、ミッキー一座と呼べ
る《劇団》を形成できたのでした。

そうです。ミッキーを中心に、ドナルドダックに、ミニマ
ウスにブルーに、それにグーフィーを加えた《五人キャラク
ター》は、他に類を見ない充実したレパートリー・シアターと
なったのです。この日さまりい発展性こそがウォルト・ディズ
ニーの持味、マジカルなパフォーマンスかも知れません。

ウォルト・ディズニーの生い立ち

さて、《世紀の天才》の生い立ちについて触れることにしまし
よう。

ウォルト・ディズニーは、1901年12月5日アイランド系カ
ナダ人の父と、スコットランド系アメリカ人の母との間に生ま
れました。四男坊で、ウォルトに最も年齢が近い兄のロイは、

1893年6月24日生まれて、8歳
も年上でした。生まれた街リ
ノイ州シカゴについて、ウォ
ルトはなにも覚えていません
でした。それは、1903年ウォ
ルトが4歳のときに移り住んだミ
ズーリ州マーセリンの印象が強
かったからかもしれません。人
と車でゴミゴミしている大都会
シカゴよりも、静謐と広い庭で
思いきり遊べたマーセリンの
田舎は住み心地がはるかに良かったのでした。

●1902年、生後10ヶ月の頃のウォルト・ディズニー

学校のカンジンの学業はサッパリで、ウォルトは名作童話
や冒険小説を、夢中になって読みあさったのです。中学校時代
のことですが、早くも彼はドラマの基本——主人公のキャラク
ターとプロット——をマスターしたかのようでした。

この頃、絵を描くことも興味を示しましたが、10代の彼の
才能はむしろリンカーン大統領やコメディアン、チャップリン
の物まねのほうに発現していました。しかし、1917年秋にシ
カゴの高校に通うのは、校内誌にカートゥーン(マンガ)が載
るほどにイラストの才能が認められ始めていました。また、青
空演芸(ヴォードヴィル)の劇場や映画館にも通って、芸人の演
技と感と踊り、笑いのギャグに感心し、映画という新しい芸術
に強い興味を示していったのです。

1918年の夏、アルバイトでためたお金を、生まれてはじめて
自分のために使えるチャンスに彼は、小形の撮影機を買ったの
でした。自分の映画を得意気な気分は、すでにこのときから始
まっていたのです。そしてアニメの世界に入る前に、映画を撮
ったというウォルトの得意気な気分は、後々に大きな意味を持
つようになります。ウォルトのアニメは、新聞画や記録映画の延
長上にあり、アニメのためのアニメではないのです。ここが、他
のアニメ作家と根本的に違うところですが、ともあれ彼は第一
次世界大戦(1914~18)の末期にアメリカ赤十字の一員として加
わった後、1919年、兄ロイのいるカンザスに戻ってきました。

広告デザインの会社に入り、そこで同じ兄のアップ・アイワ
ークスと意気投合し、アニメ作りに熱中機をかけたのです。一方

ウォルトはニュース映画のキャ
メゾマンとして働き、これが強
にユニークな映画に近づきまし
た。アリスに扮した本物の女
の子がアニメの世界で遊ぶの、
という奇抜なアイディアが生ま
れたのです。

時に1923年10月16日、ウォルト
とロイの兄弟はアリス・シリ
ーズを作るべく、ハリウッドの外
れにスタジオを設立したのでした。

●1923年、ハリウッドにて。カメラを
のぞく奥手に立っているウォルト。

ミッキー・マウスの誕生

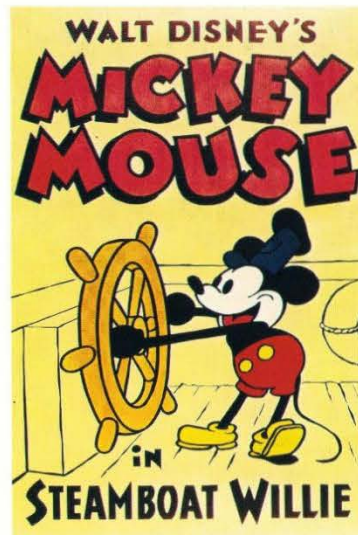
1924年から4年間アリス・シリーズを製作し続けたウォ
ルトは(全部で37本)、1927年からアニメーションのウサギ、オズワ
ルド/ハッピー・ラビットを登場させました。このオズワルド
も対して、アニメーションの将来は明るいものと思われていま
した。しかし、そんな時トラブルが発生。オズワルドのキャラ
クター権を、映画の配給会社と衝突。権利は配給業者の元へ奪
われてしまいます。ウォルトはオズワルド以外の《まったく別
の道》を歩まざるをえなくなりましたのです。

1928年春、ニューヨークでの商談が失敗。ロスへ戻る汽車の
なかで《新しいキャラクターを早急に考え出さなくては》、そう
思った彼の頭に浮かんだのは、カンザスのスタジオで飼ってい
たネズミ(マウス=ハツカネズミ)のことでした。

「そうだ、チュウていくのだ」と決心したウォルトは、汽車
の音「シューシューッポッポ」さ、「チュウチュウッポッポ」
と唱えているように聞こえたそうです。ミッキー・マウスは最初
から《音つき》、つまりトーキーアニメだったのです。

1928年11月18日、ミッキーの「蒸気船ウィリー」はニュー
ヨークの劇場前、ブロードウェイのクロニク劇場で第1回目を迎
えました。初のトーキー・アニメの成功は大変なもので、それ
は劇場を持たずに北極を目指そうものでもした。ともあれ完
成し、ウォルト以下が心配するなか、ミッキーは第1打落で全
心の場外ホームランを放つほどの《インスタント・サクセス》
を記録したので、まさに《一夜にして歴史を変えてしまった》
恐るべきアニメ、そしてアニメ・キャラクターの誕生です。

この「蒸気船ウィリー」には作者の思いが強く反映され
ています。ウォルトはトーキーになったからといって、ただ音が
出ていけばよい、という安易な発想には断固として反対しまし
た。使われる音それぞれに意味を持たせれば、スクリーン上の
キャラクターとは別のキャラクターとなる、と考えたのです。



●ミッキーのデビュー作「蒸気船ウィリー」のポスター

音楽も重要なキャラクターとなり得るというわけです。
使われた楽曲はヴォードヴィル・ショーでも知られていた「ス
ティームボート・ビル(蒸気船ビル)」と、民謡「ワラの中の七
面鳥」でした。この2曲はミッキーの《遊び仲間》として使わ
れ、ミッキーはミッキーでこの音楽に合わせて口笛を吹き、リ
ズムをとり楽器(それがヤギのシッポだったり、カバの歯であ
ったりするのです)を鳴らすのです。



ミュージカル・アニメ、という考えがウォルトには早くから芽
ばえていました。

また、こういう道徳をすることに、ウォルトの音楽的趣味、
決して音楽家ではないのに優れた音楽性を発揮する天才家ぶり
が顔をのぞかれています。彼は一貫してシンシブルで優しいセン
サメンタリティーを音楽に求め、それは今日まで計り知れぬほ
どの成功を取っているのです。

ミッキーはデビュー以来、170本以上のアニメ映画とTV作品
に出演しました。その中にはディズニー・アニメの最高峰とい
われる長編「ファンタジア」の主演もふくまれています。とも
あれデビュー直後より、驚くべき《ミッキー・マウス》現象を至
るところで巻き起したのです。

例えば1929年、つまりデビューした翌年に早くもキャラクタ
ー・グッズの第1号が生れました。それは学校で使うメモ用
紙で、表紙にミッキーが使われたのです。そしてやはり同年にア
メリカ中の映画館を通じ、ミッキーのファン・クラブが創設さ
れたのです。翌30年には新聞にミッキーのマンガ(コミック・
ストリップ)が掲載され始め、33年には腕時計にまでミッキー
のデザインが採用し、これがまた大ヒット商品となり、一度は
倒産しかけた時計会社をミッキーが救済、という美談まで生ま
れました。なんでも1年間に100万個近くも売れたそうです。

このミッキーの大成功の影にかくれて、彼の個人ともいうべ
き忘れてはならない二人がいます。

ひとりはおリアン・ディズニー、ウォルトの奥さんです。彼
女は夫と共に例のロスに戻る汽
車旅行に同行していました。車
中で新しいキャラクターを考え
出した夫が、モーディマーとい
う名をつけたところ、
それに反対してミッキーと命名
することにしたので彼女でした。
いわば「名づけ親」といえるで
しょうか。



●ウォルトの片腕、アップ・アイワ
ークス。(ウォルト・ディズニー、前編と
後編の生い立ち) 講談社刊より

残るひとりはおアップ・アイワ
ークスです。カンザス時代にウ
ォルトと共にアニメ作りに熱中した同僚です。ウォルトがハリウ
ッドにスタジオを開張するや、まさきき呼び寄せたのがアイワ
ークスでした。その彼がミッキーを描きに描きまくったのです。
ウォルトがキャラクターを作り、アイディアを出すと、それを
次々と絵に描いていったのがアップ・アイワークスでした。ミキ
キーは顔も耳も胴体も円形のもの、後々は《描きやすいから》
といった説明がつきましたが、それにしても、アップは他の誰よ
りも早くイラストを描くことのできる、スタジオには欠かせな
い人物でした。

なにしろ、1日に700枚以上という超スピードで、アニメの原
稿を仕上げたといわれる《伝説》の持ち主です。



ミッキーの仲間たち

ミッキー・マウスが働いたキャラクターであっても、彼が独りだけだったら今日に至る大活躍を遂げたかどうかは分かりません。大スターの活躍を《引き立たせる》憎まれ役、敵役、ヒロイン、脇役がいてこそミッキーの存在は光り輝いたのです。ウォルト・ディズニーのアニメの最大の特徴はキャラクター・アニメーションと呼ばれるように、実に様々な魅力的なキャラクターを次々と登場させることで独自の世界を広げたのです。



●ミッキー・マウスの様々な衣装を着た姿も、個性化しました。

ミニーマウス

最もチャーミングで、《ミッキーの永遠の恋人》として人気を博したのがミニーマウスです。彼女はミッキーと一緒にデビューしました。ミッキーが冒険家でスポーツマンといった役どころだとすると、ミニーマウスは歌手でダンサーという役どころをこなして、よきコンビぶりを発揮しています。

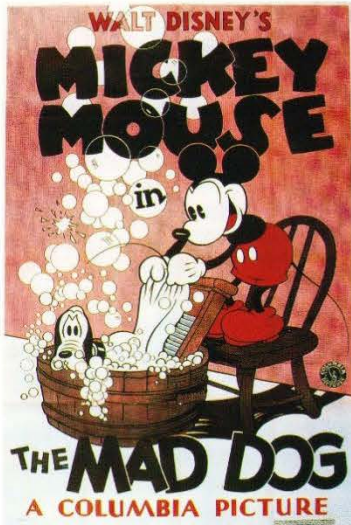
2人の共演作は70本以上ありますが、音楽的にも重要なのは1929年の『ミッキーのフォーリーズ』です。ミッキー・シリーズの10作目で、タイトルに初めてミッキーの名前が入れられました。この作品に使われた『ミニーマウスのヨーヨー』こそはミニーマウスのテーマソング。作者はカール・ストーリング。カンザス時代のウォルトの友人で、ディズニー・アニメの最初の音楽部長でした。

ブルート

脇役のナンバー・ワンといえは、ミッキーの愛犬で忠犬、時に猟犬しかし正体は雑種の駄犬であるブルートでしょう。多才で多様なディズニーのキャラクターの中にあって、彼はもっぱらワンワンワン、と吠えるくらいしかできません。

デビューは1930年。当時ブルートという名前は新しく発見されたばかりの太陽系の惑星に付けられたもので、その惑星はディズニーの生まれたばかりのキャラクターに命名されました。ちなみに惑星ブルートの日本名は冥王星です。

口を効かないブルートですが、突然と美声を張り上げて歌ったことがあります。もっともレコードの歌声に合わせたの1バツまでです。それは1947年の『ブルートは歌が好き』で、歌ったのは「エー・ピロング・トゥー・マイ・ハート」、そしてこの歌は「ソラメンテ・ワナ・ヴェス」というタイトルで日本では良く知られています。メキシコ生まれのラテンのスタンダード・ナンバーが世界的に有名になったのはディズニー・アニメ



★1932年『The Mad Dog』のポスター

のおかげです。ブルートが美声を披露する2年前、1945年の『三人の騎士』でメキシコのエピソードに用いられたのです。

グーフィー

ブルート以上に変わった犬といえは、グーフィーの外にいません。グーフィーはそのユニークな性格を存分に発揮して大スターの座を獲得したのです。デビューしたのは1932年の『ミッキー座』で、新しいものを創り出すウォルトは、ミッキーの飼い犬ブルートとは違うコンセプトの犬を送り出しました。

グーフィーは独立した存在で、スマートで君々しいミッキーとは逆の、ダラダラとジジキく、ノロマで相手が完全にイラつくほどのマダラッコンパニオンです。デビュー作にあってはミッキー一派のステージを観客として見守っていますが、ピーナッツを食べながら不思議な笑い顔で物見しています。どうしてそんな犬ではない、ということまで気がつく犬と最初ではあられませんでした。

しかし、このトナマメマメが少しずつ注目され、出演作品も次第に増加し、7年もの下積み生活の末に1939年の『グーフィーの釣り大冒険』で大スターの座に就きました。次には『乗馬教室』などのハズ・ドラ・シリーズで大当たりをとり、さらにスポーツ・オールスターのグーフィーのキャラクターを逆に活用したスポーツ・シリーズがヒットし、大スターとなったのです。

グーフィーとブルートがいなかったら、ミッキー・マウスは半ば死んでいなかったといっても過言ではありません。

ピートたち

ところで、ミッキー・シリーズにあって欠かせない極悪な敵役はピートです。彼の強弱は意外なことにミッキーよりも古く、ウォルトがカンザス時代に生み出した『アリス』シリーズに登場します。正体はドウ猛な山猫です。つまりネズミには宿命的な《天敵》ですから、ミッキーと仲が良いワケがありません。巨大な身体、荒っぽい性分でミッキーを常に悩ませます。初期の頃は、まるで『宝島』の海賊、ロング・ジョン・シルヴァーのように、片脚が壊れて、見るからに恐ろしい存在でした。「ピート」と聞いただけで、ミッキーはブルってしまうほどののです。

他にミッキーの仲間という、これがまた不思議なキャラクターが多いのも大きな特色となっています。最初にカウベルと呼ばれる鈴をぶら下げたクララベル・カウ、首輪の代わりにホースカラーと呼ばれる特殊な馬用のカラーをつけたホース・ホースカラー、クワックワックと鳴くのが得意で、オペラのプリマドンナ風のメンドリがクララ・クラックです。

Donald Duck

そして、ミッキーを脅かしたのはDonald Duckの急進ぶりです。初めはタタの《うるさいアヒル》と騒ぐ見ていたのですが、勢が凄く、その上目立ちたがり屋の性格でグングンと実力をつけ、ミッキーと人気を二分するほどに出世しました。

Donald Duckは（1942年の『Donald Duckの入隊』で明らかにされるのですが）正式な名前はDonald Duck・ファウントリロイ・ダックというのだそうです。デビューはミッキー・シリーズとは違う1934年のシリシシシリシ・シリーズの『かしこいメンドリ』。ギャグ・アヒルは目立つ存在で、早速1934年の『ミッキーの芝居見物』にスカウトされ、すっかり顔を出るのです。いや、歌声といった方がいいかもしれませんが、ここでDonald Duckが歌ったのは有名な民謡『メリーさんのビーツ』でした。

Donald Duckの思わぬ音楽長はまだまだあって、ミッキー・シリーズが初めてカラーとなった、1935年の『ミッキーの大冒険』に



★『ミッキーの大冒険』

おいて登場されます。ミッキーは楽隊長として指揮台に立ち、ロッシーニの作曲『ウィリアム・デル』序曲を振り出します。そのまま演奏は順調に進むと思ったら、Donald Duckが登場、大衆をあげてピーナッツを売りまくります。次にはジャズ・コック・ダンスで、ピッコロで『ワラの中の七面鳥』を歌くんです。これでミッキーの演奏会はすっかり調子が悪くなってしまいました。

ミッキー同様、Donald Duckも一座を構えるほどのキャラクターを抱えています。

すなわち恋人のディジー・ダック、三人のイタズラ好きのヒューイ、デューイ、ルーイです。Donald Duckはこの三人に常々コッテンパンにやられてしまいます。またディジーには三人の孫っ子エイプリル、メイ、ジューンがいるのです。

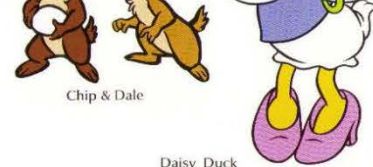
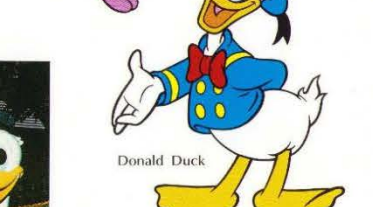
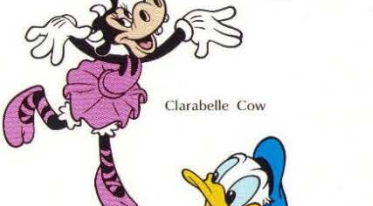
またアングル（佐父さん）のスクルージ・マクダックと、ヨーロッパの伯父さんとして1900年代のTVで活躍したルーディ・ウィット・フォン・ドレイクという教授がいますし、Donald Duckのケンカ相手として常に手こずらされるのがシマリスのコンビ、チップとデールです。可愛いらしいリス君は1940年代初めに登場し、Donald Duckを《やっつける》たびに人気を上げさせ、1950年代の大スターとなっています。2匹の区別がつかますか？ 黒い鼻で1本前歯がチップ、赤い鼻で前歯が2本出ているのがデールです。

声の魔術師たち

ウォルト・ディズニーは、創り出すキャラクターの個性と同様に、「声の性格」も重視しました。キャラクターと声のイメージ、両者はピッタリ一致しなくてはダメ、というのがウォルトの考えでした。ディズニー映画にあって、「声の王」はきわめて大切な役目だったのです。

そんなワケで、ミッキー・マウスの声はウォルト・ディズニー自身が担当しました。1940年の『ミッキーと豆の木』の製作時からジム・マクDonaldになり、1950年以降はウェイン・オルヴァンとなっています。ミニーマウスは、1940年までマーセリー・ガーナー、その後デルマ・ボードマン、ルース・クリフォードとなり、今日ではラッシー・ディラーが受け持っています。グーフィーは初代ピント・コルヴィグの後、ジョージ・ジョンソン、ボブ・バックマン、現在はビル・ファーマーとなっています。そしてDonald Duckは声優のクラレンス・ナッシュが、実に50年の長きにわたって勤め、1983年よりトニー・アンセルモに替わりました。

誕生して60年以上、ウォルト・ディズニーのキャラクターたちは1990年代の今日も、変わらず元気で活躍しているのです。



音楽とアニメが 手を組んだ 〜『シリー・シンフォニー』



■ 墓場から四体の骸骨が……「骸骨の踊り」。

スケルトン・ダンス

ミッキー・マウスが『蒸気船ウィリー』で成功してから半年後の1929年5月、ウォルト・ディズニーは全く新しいアニメを発表しました。お得意のキャラクターを縦横に活躍させるのではなく、音楽をメインにした風物詩のような作品を。

これこそが「ミッキー・マウス・プレゼンツ / ア・ウォルト・ディズニー シリー・シンフォニー」シリーズの幕あけて。記念すべき第1号は『骸骨の踊り』です。このシリーズの《言い出さず》で音楽責任者のカール・ストーリングは、少年時代に見た雑誌の1シーンを基にして構想を練りました。起用されたテーマ音楽は、19世紀の北欧ノルウェーの有名な作曲家グリーグのピアノ曲で、小品ながら叙情的で人気の高い『小人の行進 (March of the Dwarfs / Trolldog)』です。深夜の墓場、猫さえずり声とあわせて

雰囲気の中を、どうしたことかこのグリーグの音楽に合わせて地下から四体の骸骨が現れ、様々な踊りを繰り広げ、夜が明けるとまたたけわたるというものです。この、不思議なアニメーションは、ウォルトの片顔アブ・アイワークスを中心に創られました。骸骨という、世にも恐ろしい不気味なシロモノに愛着さえ感じて、ユーモラスかつチャーミングなアニメーションにした点は絶妙で、素晴らしい発想が見事に実りました。

「ウォルトはミッキーさえ創っていただければいいのだ、無理してまで冒険することはない」と除口をたたかれましたが、公開してみると大変な反響、一夜にして、『もっとシリー・シンフォニーを創ってくれ』との注文が殺到した事から、『映画界というところは何事も現金なもの』と、ウォルトは二が笑いたものでした。

しかし、従来のギャグを中心としたアニメーションとは《全く異なる》このシリーズの誕生と成功は、ウォルト・ディズニー・アニメーションの初期にあって、貴重な土台を形成したものでした。1939年までの10年間に全部で4本（『カウ・ボーイズ』、『製作されたシリー・シンフォニー』は、音楽とアニメだけが発表された）が発表された新しいディズニーの世界の、文字通り（看板アニメ）として育っていったのです。事実、1930年代のディズニー・スタジオには、ミッキー・マウスとシリー・シンフォニーの2大看板が掲げられていました。おまけに、1932年の『花と木』からはカラーになっています。ミッキー・シリーズがカラー作品となるのは1935年のことですから、大スターミッキーを《食う》ほど破格の扱いを受けていたわけです。あらゆる角度からアニメの可能性を試すことが出来ることで、ウォルトにとっては願ってもないワークショップ（実験的な創作工房）となりました。

いずれにしても、ミッキーとシリー・シンフォニーの2大看板があったからこそ、次の長編アニメという前人未到のステップが踏めたわけですが、実をいうと、シリー・シンフォニーは考え方の

違いから誕生したのでした。ミッキーをトーキー・アニメとして成功させよう、ウォルトはカンザス時代に知り合ったカール・ストーリングをスタジオに招き入れました。スタジオ初の音楽部長となったカールは劇場での音楽経験が豊富で、1920年代末のサイレント映画（セリフが一言も聞えてこない映画）時代に《音楽ですべてを表現》する技を身につけていました。当時は映画から発声させることのないセリフに代わり、音楽でドラマの雰囲気を感じさせることを知っていました。そして、ディズニー・アニメにおける音楽の部分を一歩と拡張していこうと試みていたのです。そこでウォルトと《対立》が生じたのです。

「キャラクターに制約されることなく音楽を優先させ、そこにあるドラマと感情をアニメとして表現しても面白いはず」という発想がカールにはあったのです。悩んだ末にウォルトは明確な決断をくだしました。

「二つのシリーズを創ろう。一つはミッキー・マウス・シリーズで、キャラクターとアニメーションの動きに合った音楽をつける。もう一つは、キミの気に入った音楽にアニメーションの動きを合わせる、というのどうだい？」

カールはもちろん承諾し、かくして、ミュージック・アニメ、シリー・シンフォニーは成功の第一歩を踏み出したのでした。

3匹の子ぶた

シリー・シンフォニーの最初の頃は、『春』とか『冬の夜』とか、ストーリー性を欠いた音楽性の高いアニメでした。やがて1931年より『マザーグース・メロディー』『みにくいアヒルの子』『クモとハエ』といった、ドラマ性に富んだ作品が試みられるようになります。これが評判を呼び、『名作童話のアニメ』、『おとぎ話のアニメ』へと発展を遂げるのです。

とはいえ、音楽性が《ないがしろ》にされたのはありません。むしろ、おとぎ話ベースでも『音楽』が決定的な成功をもたらすことになりました。1933年の『3匹の子ぶた』のこの作品で、ディズニーのスタジオから、アメリカ全土で大流行する主題歌が生まれたのです。『子ぶたを食べたくて、あの山の手を使え（Sing a Song of Sixpence）』という3匹の子ぶたの歌が、なんと『なんかにこわくない』がそれて



■ 3匹の子ぶたは歌と踊りが大好きな大スター。毎日歌って踊らされている。



内メモで『3匹の子ぶた』と狼のキャラクターを、もっと人間くさくするように」と指示し、音楽スタッフに主題歌を創るよう命令したのです。作曲したフランク・チャールは『ウォルトから話があったとき、子供の頃の僕が3匹の子ぶたをベッドにしていたのを思い出して興味が高くなり、『ハッピー・バースデー』調のシンプルでハッピーなメロディーが、観時に頭に残ってきた』と語っています。

多彩なキャラクターと音楽

タイトルからして、『物語的発音』シリー・シンフォニー」というように、多くの《おとぎ話》がテーマとして扱われましたが、多様な音楽スタッフにより、ディズニー・アニメにおける音楽は驚くほど多様で多彩な響きをもつことになります。これがミッキーの成功から3〜4年後のことですから、音楽に賭けたウォルトの熱意はスゴイの一面に尽きます。

《傑作》や『花と木』といったものを、人間同様の主人公に仕立てるアイディアは、小さな生き物ネズミを、大スターのミッキー・マウスにしてしまうウォルト特有の優しさであり、感覚です。このユニークな点が競争相手とは大きく違うところとなりました。生み出したキャラクターに、どこまでも愛情をもって接し、文字通り性格づけを行い、その性格を更に《よくらし》ていったところから、それまでにない素晴らしいアニメの世界を創り出したのです。

店主が増えたのち、店内にある様々な楽器が楽しそうにダンスに興じる『真夜中の舞踏会』、名作『ロミオとジュリエット』を模して、対立するジャズの鳥とシンフォニーの鳥の若いカップルの物語として展開する『音楽の国』、夜もなるとギリギリを初めてとする多種多様な虫たちが集まってジャズ

ンスを楽しむ『森の音楽会』、といったようにシリー・シンフォニーならでは企画がありました。

また一方で、ハメルンの笛吹きを描く『魔法の笛』、有名なイソップ童話の『うさぎとかめ』、アンデルセンの名作『みにくいアヒルの子』といったように、誰もが知っている素材をアニメにしたものもあります。いずれにしても、ウォルトはシリー・シンフォニーの『音楽』を通じて、音楽とアニメを結びつけることで、『ミッキー・マウス』という強力なキャラクターをギャグ無しで、新しい作品を生み出すとしたのです。



■ 花のカラー・アニメ『花と木』。アカデミー賞を受賞した。

長編アニメーションへの道

ウォルト・ディズニーがハリウッドで名実ともに認められたのは1932年11月18日、第5回目のアカデミー賞の授賞式でした（奇しくもミッキーの誕生日でもあります）。この夜のパーティで彼は《ミッキー・マウスの創造により》特別賞が贈られ、続けて初めて設立された短編アニメ部門で『花と木』が初の栄冠を勝ち取りました（残念ながら『ミッキーの子ぶた』はノミネートどまりとなりました）。

これよりディズニー・アニメは一段と力を加え、5年後の1937年『風車小屋のシンフォニー』では、もう一つ新しいアニメの世界を切り開いたのです。原画を多層に分けて作成し、新開発の巨大なマルチペイン・カメラで撮影することで、従来にはなかった絵の躍り生き感を生み出すのに成功したのです。シリー・シンフォニーは音楽だけでなく、技術面でも素晴らしい成果をあげ、長編アニメへとトントンタッチしたのでした。



■ 『風車小屋のシンフォニー』。1937年にアカデミー賞を受賞。



The Ugly Duckling

ディズニーの音楽家たち

シリー・シンフォニーは、1939年の『みにくいアヒルの子（リメイク）』で終了しますが、このシリーズが後のディズニー・アニメにとって大きな意味をもつのは、この時代にディズニーの音楽スタッフが最も強化されたことにもよります。

初の音楽部長である前作のカール・ストーリングは別の事がやりたくなってスタジオを去り、1930年から1935年まで、ハートルイスが音楽部長となります。1931年にフランク・チャールが入社、『狼なんかこわくない』を創って大ヒットをもたらした、後に『白雪姫』『ファンビ』で、持てる才能をフルに発揮する人物です。ディズニー・アニメの黄金期を築いた1人で、豊かなメロディーと優しさを備える音楽センスは、『音楽のウォルト・ディズニー』とまで呼ばれて

『シリー・シンフォニー』の音楽家たち

います。11年続いたシリーズで、音楽面で最大の貢献者は彼でしょう。『3匹の子ぶた』をはじめ、『うさぎとかめ』『3匹の狼なし子ねこ』などを担当しています。1932年にはリー・ハーリーが入社して『風車小屋のオリバー・ウォーレス』に相当に接近して活躍しました。また、スタジオには1935年から5年間くらいしか居ませんでしたが、アル・マロットは、『みにくいアヒルの子』や特別シリーズの『牡牛のフォルティナンド』などで新境地を開拓しています。

長編アニメーションは ミュージカルの世界

長編アニメ55年の歴史

「ミッキーマウスは私にとって、言うならばそれは精神的のシンボルです」と、ウォルトは語っています。1928年、ニューヨークで商談に破れハリウッドのスタジオに戻る汽車の中で、彼は今後のことを考えていました。ずっと下流に甘んじるか、独自に作り出すに賭けるか、と思索していたのです。

そして、たとえ苦勞が多くとも、と後者を運び、生まれたのがミッキーマウスでした。ウォルト自身、こうも語っています。「ミッキーマウスの、危険を伴った人生と行状というのは、私自身の個人生活とプロの芸術家・企業家としての生涯とに、不可分の関係を描いてきました。」

彼が語る通り、1928年秋に公開されたミッキーマウスの成功を《足がかり》として、ウォルト・ディズニーと彼のマジカルなアートの世界は、これまたマジカルな大発展を遂げたのです。

その大発展は、ミッキーのみならず、1930年代から90年代までに創り上げられた31本の長編アニメを扱っては語れません。各々の作品によれる前に、長編アニメの誕生と、どのようにして育っていったか、歴史を振り返ってみることにしましょう。

ミッキー誕生の5年前、1923年、ウォルトはカンザスで最初のアリス・シリーズを作り、その1本を携えて8月にハリウッドへやってきました。苦勞の末、契約が成立、10月、兄のロイと共に自分の会社を設立したのです。これが、今日に至るウォルト・ディズニー・カンパニーの母体となりました。ちなみに今日のディズニーの会社は、経済専門誌の調査でアメリカの最有力企業のベスト50に入るほどの大成長を遂げています。

さて、アリス・シリーズは好評で、1925年には3週間に1本のペースで製作され、スタッフも12人となりました。1926年にはハリウッドの東方、ハイペリオン通りにあったピアノ工場のビルを買い取り、新スタジオとします。1927年、アリス・シリーズを終了し、「オズワルド・ザ・ラッキー・ラビビット」のアニメシリーズを開始します。ところが1928年、5本のオズワルドを伴った出来事があったところで、ウォルトは配給会社とのトラブルでオズワルドの権利を失います。そこに現れたのが後世主筆ミッキーマウスでした。ミッキーの人気は絶頂的で、急カーブを画いて、ウォルトと彼の世界は飛躍したのです。

1930年、「ミッキーの悪友4人組/チェイン・ギャング」でブ



●白雪姫と小人たちが歌詠する「小人たちのマーチ」のシーン



●新ディズニーの表現口となった作品「ピノキオ」(1940)

ルトが生まれた頃スタッフは30人。そして1932年「花と木」の頃には何と3倍以上の100人のメンバーがウォルトの元に集まったのです。2年後の1934年、「かしこいメンダリ」でドナルドダックがやかましい声をたてていた時は200人のスタッフになりました。

ウォルトは、アニメ全作品のカラー化と長編アニメの製作に向け、更にスタッフを強化します。ミッキー・シリーズ初のカラー作品「ミッキーの大演奏会」を作った1935年には400人、「白雪姫」の完成、「ピノキオ」の製作、「ファンタジア」の準備に追われた1937年には800人となり、「バンビ」が加わった1939年の後半にはスタッフ1000人というピークを迎えたのです。ミッキーから10年、スタッフの増加は約100倍、破竹の勢でした。今日振り返ってみても、1930年代の後半から40年代の前半にかけては、文字通り「ディズニー・アニメの黄金時代」を形成し、長編のみならず「田舎のなすみ」「風車小屋のシンフォニー」などの短編アニメも傑作ぞろいとなっています。

ただ、1939年から始まった第2次世界大戦は、ウォルトにとって大きな打撃でした。大切な世界の市場を喪失され経済的にも苦しくなり、これまた大切なスタッフを兵隊に取られ、思うような作品が生み出せない辛い時代となりました。戦争が収束した1945年から、スタジオが元に戻るまで5年を要しました。

1950年、「シンデレラ」の大成功を契機として、ウォルト・ディズニーは見事にカムバックします。「不思議の国のアリス」「ピーターパン」「わんわん物語」…と、続々と傑作を発表し、「ディズニー・ルネッサンス期」を形成したのです。

偉大なリーダー、ウォルトは1968年に亡くなりますが、スタジオは新しい時代に入り、大切な遺産を踏襲しながら体制の立て直しを図ります。そして1980年代の後半に至って、第3世代のディズニー・アニメーターが育ち、1989年の「リトル・マーメイド」の大ヒットが、三度目の「ディズニーの世界」を築かせました。続く「美女と野獣」や「アラジン」の史上空前のヒット……。1990年代の今日、ディズニー・アニメは以前にも増して素晴らしい、「第2の黄金時代」を進行させているのです。

白雪姫 (1937)

さて、長編アニメの記念すべき第1作となったのはドイツのおとぎ話をもとにした「白雪姫」でした。

1937年12月21日、ロサンゼルスのカネー・サークル劇場で

ワールドプレミアが行われました。世界で最初の長編アニメの誕生です。そして一夜にしてウォルト・ディズニーは世界のトップタフスのフルム・メイカーとなりました。その成功は興行成績800万ドルという経済面での勝利だけでなく、新たな芸術を創造し、アニメ製作の技術的進歩をもたらした点で、世間的でもありました。ディズニー・アニメの模倣があり、かつまた原点でもある「白雪姫」は、ビジュアル（目に訴えるもの—映像）面で卓越していることはもちろんのこと、ディズニーが目指したものが明確に示されています。すなわちキャラクター—アニメとして、登場人物それぞれに強い個性を与え、作り手（アニメーター）の感情を表現させています。それは同時に、声のキャスティングを急に入れない、キャラクターにふ



●「白雪姫」のプレミア当日。観客は成立した新歌声をあげたという。

さわしい、そのものの声のまを、採用することに繋がりました。白雪姫は見るとにチャーミングで、悪女は賢くどくどくスリリッシュ。しかし、この作品の成功は七人の小人たちを各個性的に描き、魅力をふくらませたことでした。

ところで、ウォルトはグリム童話の中でも最も有名な作品をアニメで描くにあたり、第1回、ミュー・ジカル・アニメとしよう、と考えました。彼は作詞家でも、作曲家でもありませんが、音楽が観る者の心の奥にまで入って感動を呼び起こす、という事を知っていたのです。音楽こそ、彼の特色となつたばかりでなく、掛け替えのないオリジナリティを兼ねるところとなつたのです。彼と彼の世界を一口で「アメリカン・オリジナル」と呼ぶのも、まさにそこにあり、これこそ彼の道筋を決めてきたものなのです。

さて、「白雪姫」の音楽はフランク・チャペル、リー・ハーリス、ポール・J・スミスの3人が担当し、主題歌もF・チャペルが受けもちました。ウォルトの信頼も厚いチャペル



●姫が眠りの井戸で水を汲みながら歌う、「私の願い」のシーン

は、「娘なんかこわくない」の作曲者です。人情草の心優しい娘ならではのスコアを、この「白雪姫」に盛り込んでいる。ストーリーの基本が定まったのは1934年8月、これより主眼歌の創作に入り、チャペルは25曲を書きあげましたが、結局のところ映画の本編で採用されたのは次の楽曲です。

♪私の願い♪

お城の掃除を女王からうつった姫が、
「願いの井戸」のところで美しい歌声を聴かせます。井戸の中で歌声がエコーを作りこれが大変に効果的だ。

♪ワン・ソング♪

姫の「願い」を耳にしたのは、たまたま近くを通りかかった王子様で、彼のアンサー・ソングとして用いられました。

♪歌とほほえみ♪

女王の「魔手」から逃れ、森の中で可愛らしい動物たちを相手に、逆縁に負けじと姫が歌います。

♪口笛ふいて働こう♪

姫がたどりついたのは小人たちの家でした。あれは森の中で、口笛を吹きながら掃除する姫の歌です。

♪ハイ・ホー♪

すっかりお馴染みのメロディー。山の中、ダイヤモンド飾りの小人たちが、仕事を終えて家路につく行進曲です。当時より大衆に人気を博しました。

♪ブラドル・アドル・アム・ダム♪

姫が作ってくれた食事につく前に、小人たちが歌う「ザ・フ・オッシング・ソング」です。

♪小人たちのコーデラ♪

食後のパーティー、姫と小人たちは音楽に舞じます。

♪いけ王子様が♪

余興が終わったところで、今度は小人たちが姫に「何か歌ってください」とせがみます。そこで姫の美声を披露するナンバーがこれです。姫のキャラクター同様に、結核で可愛らしいワルツの曲は、今もって最もリクエストの多いスタンダード・ナンバーとなっています。

なおウォルトが「品が無い」としてミュージカル・ナンバーから外したものは、小人たちが食事中にスプーンに顔を突っ込むシーンの「ミュージック・イン・マイ・スプーン」でした。

(声の出演者)

アドリアナ・キャセロッティ(白雪姫)、ハリー・ストックウェル(王子/彼は1950年より活躍している俳優ディーン・ストックウェルの父)、スコット・マトロウ(てすす)、ロイ・アドウェル(先生)、ビント・コルフィグ(おこりんぼなほすけ/彼はディズニー・スター、ターフィーの声の主でもある)、ホー・オスバーン(にきげん)、ビリー・ギルバート(くしやみ)、ルネ・ランパン(女王/悪女)他。



●七人の小人たち。左から、おこりんぼ(Grumpy)、にきげん(Happy)、ねすけ(Sleepy)、くしやみ(Sneezzy)、てすす(Bashful)、おとど(Dopey)。





Pinocchio

Jiminy Cricket

ディズニーの音楽家たち

1931年にウォルト・ディズニーのもとに加わったのがフランク・チャーチルでした。スタジオがハイペリオンに移り、更に初のサウンド・ステージ（映画製作と録音作業が同時に行えるスタジオ設備）が完成した頃のことです。彼はウォルトと同年齢で、東北郡メーランド出身ながら大学はカリフォルニアでした。サイレント映画音楽やかなり1920年代に映画音楽のピアニスト（上級者）の技を学んだピノキオの音楽家として、ウォルトは彼の才能を見いだしたのです。こうして、1930年代前半のディズニー作品（ミッキーを中心とした短編）に大いに貢献し、1933年の「3匹の子豚」の「賢いお母さん」で大ヒットをとばすなど、スタジオの音楽面をリードするようになりました。作風としてはリアルで魅力的な美しいメロディーで、「白雲歌」「タンポ」「パンビ」に

フランク・チャーチル リー・ハーリソン

て、彼の持ち味は各分に発揮されています。残念ながら1942年、若くして亡くなりました。リー・ハーリソンは1932年に入社した作曲家です。ユタ州ソルトレイク出身の彼は、地元ユタ大学を卒業後、作曲家として身を立てるべく、地方のラジオ局で作曲の仕事をはじめ、自らの才能をもっと発揮する場を求めてディズニーのもとにやってきました。学校で本格的に音楽を学んだばかりで、幅広い知識と深い理解力は、ディズニーの新しい魅力になります。クラシック音楽を巧みにおこなった「ミッキーのグランドオペラ」や、シンフォニック・スコアを応用した「風車小屋のシンフォニー」などはその好例といえます。1930年代の数々の短編作品の後、「白雲歌」を手伝い、「ピノキオ」でもその才能を発揮しました。「星に願いを」は、ディズニーのトレードマークとして大々然と輝いています。その後、彼は音楽家の音楽家を目指して1941年にスタジオを去り、1969年に亡くなりました。

『ピノキオ』(1940)

『ピノキオ』は、1940年に公開された長編アニメの第21作目です。イタリアのコロッチの原作からなる童話で、勇気があって利己的でなく、善悪の区別ができてこそ、主人公は「本当の少年」になれることをテーマにしています。

星のフィカロと金魚のクレオを我が子にわり、ゼベットさんは独り暮らし。木の操り人形を仕上げ、ピノキオと名づけてベッドに入ります。寝る前に星に願をかけて……、「どうか、この子が本当の子供になりますように」。遙か遠くの星で見ていたブルー・フェアリー（星の女神）は、願いを聞いて、ピノキオに命を与えてくれました。生まれたばかりで無知なピノキオのために、ブルー・フェアリーはコロロキのジミニ・クリケットを彼の「良心」役に任命します。「指導をよろしく」と頼まれたジミニが、まずオープニングを歌います。これが、ディズニー永遠のテーマソングとなった「星に願いを」でした。



★ゼベットさんが寝る前に星に願をかけて、「星に願いを」のシーン。

♪星に願いを♪

ジミニが歌うこの歌の声の主は、ヴォードヴィールで絶えた芸人、クリフ・エドワーズ。ドラマズとウクレレの名人で、別名「ウクレレ・アイク」として知られます。この歌は、ディズニーに最初のアカデミー主題歌賞をもたらしたばかりでなく、1930年代に始まった「TVシリーズ」「ディズニーランド」のテーマ曲となり、更に株々のディズニー関係のイベントに用いられ、愛され続けています。作曲はリー・ハーリソン。彼は、ハリウッドきつての作曲家で、ワシントンと組んで歌を発表する一方、ドラマ全体のスコアも書きました（一部ボール・スミス）。これによって音楽の一面性が発揮され、ドラマチックな構成となり、アカデミー・オリジナル・スコア賞も受賞しています。

トリトル・ウッドラフ・ヘッド

ゼベットが作った時計のシーンに使われた曲。歌もゼベットで、操り人形やベットのちとちとの関係も微笑ましく描かれます。

♪困った時には口笛を

人間そっくりになったピノキオを見て、ゼベットさんは大喜び。さっそくリンゴを持たせて学校へ行かれます。「良心」役としてくっついていくジミニ・クリケットが歌います。

♪ハイ・ディドル・ディー・ディー♪

登校途中で、ピノキオは早くも走り道。道端のイチツネの「正直者の」ジョンことJ・ワシントン・フォウフェロウと手



★主人公ピノキオを誘導、「ハイ・ディドル・ディー・ディー」

下の猫ギデオンにつかまり、「人気スターになれる」という誘惑にかられます。別名「アン・アクターズ・ライフ・フォー・ミー」。

♪もうおはらいない

《おはらいの操り人形》としてデビューしたピノキオが、ストロングリ視方の人形劇団で歌います。観客の大喝采をあびますが、金づるをつかんだストロングリは、ピノキオを鳥かごに閉じこめてしまいます。ブルー・フェアリーが助けに来てくれたものの、平気でウソをつくピノキオは再び悪の道へ。やっと良心に目覚めた時は、ゼベットさんは行方不明になっていました。トター・オン・オール・ミュージック・ボックス。

ハッピー・エンディング、ハッピー・リユニオンにふさわしいナンバーです。人間の子にされたピノキオのそばには、胸にブルー・フェアリーから贈られた黄金のメダラをつけたジミニが。メダルには、公式の良心「18カラット」と刻まれ、彼の歌うエンディングはもちろん「星に願いを」です。

《声の出演者》

ディック・ジョーンズ（ピノキオ）、クリフ・エドワーズ（ジミニ・クリケット）、ウォルター・カッドレット（J・ワシントン・フォウフェロウ）、クリスチャン・セベット（イヴリン・ウェナブル（ブルー・フェアリー））他

『ダンボ』(1941)

「ダンボ」の企画もまた彼らのものでした。ウォルトの片割として囃したアニメーター、ウォード・キンボールは後日談として「スタッフ一同が休となり、最も短期間で完成したんだ。ゾウが空を飛ぶというプロットを、ウォルトが僕に話してくれた時、この作品には深い感動の心とアニメの心算が込められていると感じた」と語っています。4年かかった「白雲



★どんな赤ちゃんでも、母ダンボに抱かれてはかわいいうつ。

雲」に比べ、「ダンボ」は1年半で完成。大がかりな特撮はないものの、かわいらしい作品にまともな人気を博しました。

母ゾウのジャンボ（大きい意）の子供ダンボは、どう間違っても耳がバカに大きいのです。それ故に、ゾウの仲間からもイジメられ、子供ながらにひどい目に遭うのです。それを救ってくれたのがネズミのディモシー。カラスたちの協力も得て、ダンボは耳で空を飛べるようになります。そして大スターとなり、高価なギャラでハリウッド入りを果たすのです。



★ジャズ・シンガーのカラスたちがダンボを助けて空を飛ぶシーン。

トルック・アウト・フォー・ミスター・ストーク

赤ちゃんを配達するコウノトリ（ストーク）の歌で、フロリダで冬を過ごすサーカスのところに舞い降ります。

トケシー・ジュニア トデント張りの歌

サーカスには欠かせない、移動列車トケシー・ジュニアの軽快なナンバー。次の「デント張りの歌」も、街から街へ移動してジョウを巡る会場での、スピーディーなナンバーです。

♪私の赤ちゃん♪

ダンボをバカにされた母ジャンボは意欲、危険なメスゾウとして、檻に入れられてしまいます。外から、母を慕ってダンボが近づき、ジャンボは涙で優しくあやします。ネッド・ワシントン作曲、F・チャーチル作曲の傑作です。

♪ピンク・エレファント・オン・パレード

サーカスで失脚したダンボは、酒を知らずに水を飲みまくり、ディモシーと共に酔っぱらい、フジキなゾウたちといっしょに踊ります。作曲はオリヴィエ・ウォーレス。

♪もしぞうが空を飛べたら♪

目を覚ましたダンボとディモシーは木の枝に。それを見た4羽のカラスが、大賛美しながら歌うナンバーです。リーダー格の声はクリフ・エドワーズ。作曲担当のチャーチルとウォーレスに、アカデミー賞（オリジナル・スコア）が贈られました。

《声の出演者》

エドワード・クロフ（ディモシー）、ウェル・フォルトン（おばさんゾウ）、スターリング・ホロウェイ（コウノトリ）、クリフ・エドワーズ（カラス）、ジム・キャミチール（カラス）他

『パンビ』(1942)

フェリックス・ザルデンの原作をもとに、約5年近くかかって完成した大作です。千歳のパンビの誕生から、彼が新しい森の王者になるまでのプロセスを、ウォルト・ディズニーは徹底

したリアリズムと深い愛情をもって描きあげ、ディズニー芸術の極致とまで称讃されたのです。

この作品の大きな特徴は森の動物たちのナチュラルな動きですが、セリフの数も900語くらいと極端に少なく、その分だけ音楽の果たす役割は大きくになっています。スコアは、スタジオのリース、フランク・チャーチルが採用され、作詞はボビー・モリーという「白雲歌」からのコンビとなりました。

音楽監督のエド・プラムが「パンビ」の音楽について悩んでいたところ、ウォルトがベートヴェンの「田舎」交響曲を取りだし、「こういう曲がほしいんだ」と、事もなげに言ったそうです。何とモスコーの大きな話です。

♪夏のうたえ

オープニングを飾るテーマ曲で、カメラがゆっくりとパンして森の中に入っていくシーンが印象的です。生まれたばかりのパンビはやがて、ウサギのともんと仲よくなります。

♪4月の雨♪

コースラによって歌われる、美しく感性的なナンバーです。森の中で、パンビは突然に雨にあひます。最初はボツボツの雨足がやかに早まり、雷光と雷鳴と共に大雨になり、パンビはびっくりします。音楽の効果もまた抜群で、詩的な美しさにあふれています。

♪春のしらべ♪

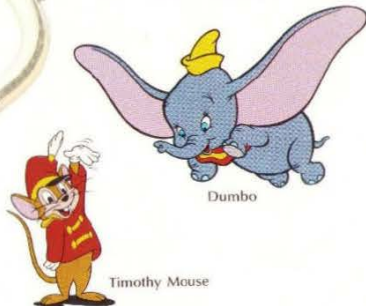
寒い冬を過ごした後、春の訪れと共に、パンビともんともんスカンのお花ちゃんも顔をそろえます。フクロウのおじさんの心配どおり、みんな顔に華になります。

トルッキング・フォー・ロマンス(あなたに歌を)

「色恋には無敵だ」と思っていたパンビですが、幼なじみのファリーンに夢中になってしまふロマンスの歌です。なお、F・チャーチルは1942年に不慮の最期を迎え、エド・プラムが残りの3期のスコアを仕上げることになりました。ラストの、森の火事のスコアは極立っています。

《声の出演者》

ボビー・スチュアート（パンビ）、ピーター・ベン（ともん）、スターリング・ホロウェイ（お花ちゃん）、ベン・ライト（フクロウのおじさん）、キャミー・キング（ファリーン）他



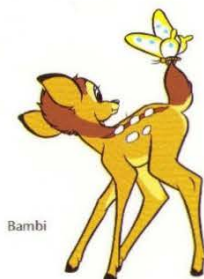
Dumbo

Timothy Mouse



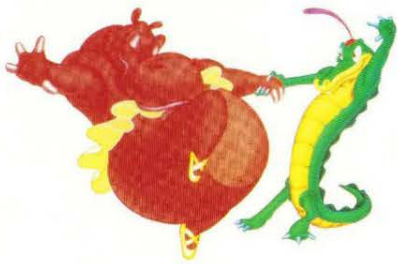
★ウサギのともんはたくさんのお花ちゃんも一緒に元気に。いつも母鹿にいられて……。

★母もかきつけてしょうがないパンビ。ともん、お花ちゃんといっしょの有名なシーン。



Bambi

音楽アニメの金字塔『ファンタジア』



ミッキーを再びスターに

1940年に公開された『ファンタジア』は、ディズニーが手がけた音楽アニメの《傑作》とされた作品です。ウォルト・ディズニーは、1937年『白雪姫』の完成の見通しが立つと、早くも次のことを考えはじめていたのです。それは、ミッキー・マウスに活躍の場を与えるために、ホール・デュカスの音楽「魔法使いの弟子」のアニメ化の権利を買い取ったことです。

どうして、ミッキーだったのかというと、1930年代後半に入るとドナルドダックが、新人ながら大先輩であるミッキーの人氣に大きく迫ってきたからです。ドナルド特有の傍若無人の振舞いは大いに笑いのタネをまいてくれたのですが、『ディズニー・スターのトップはやはりミッキーだ！』との想いをウォルトは常に持っていたのです。そのミッキーの活躍の場として「魔法使いの弟子」が考えられたのです。

当初ウォルトは、この「魔法使いの弟子」だけの短編を考えていました。それも、以前作った音楽アニメの「シリー・シンフォニー」のパターンではなくドラマ性を持った作品を考えていたのです。またミッキー・マウス・シリーズといえは『ワラの中七面鳥』や『軽騎兵』といった音楽のイメージ。このパターンもまた打破したかったのです。シリー・シンフォニーにしても、また「ミッキーの大演奏会」(1935年)にしても、ウォルトの《大きな夢》へのワンステップだったのです。そして世界初の長編アニメに一つのメドが立ったところで、結案だったミッキーのニューステージを、本気になって検討し始めたのです。

ストコフスキーとウォルト

ちょうどその頃、偶然にもウォルト・ディズニーとレオポルト・ストコフスキーの二人巨頭が顔を合わせたのです。ストコフスキーは、世界の指揮者として知られていますが、当時ハリウッドに招かれて「1937の大放送」(1936年)にゲスト出演した後、「オーケストラの少女」(1937年)ではディナー・ダービの共演者になるほどの人気者でした。ウォルトとの《歴史的な出会い》について、ストコフスキーは次のように語っています。

「彼(ウォルト)とはレストランで初めて知り合いました。彼の近くのテーブルで、私は独りで夕食を摂っていたところ、一緒にいかがです」と声をかけられたのです。それからデュカスの「魔法使いの弟子」に話がかかると、「この曲は好きですか?」と尋ねられたので、「大好きです。私がどこまでできれば素晴らしいです」と答えたものでした。

合わせていました。古典音楽をアニメに合うよう絶妙な手を加えた一例としてベートーヴェンの「田園」をあけると、最初の2分間だけで、50箇所も曲と違うヴァージョン(書き換え)になっていたそうです。

ともあれ「魔法使いの弟子」は1938年に完成。しかし、コストが原稿のシリー・シンフォニー・シリーズと比べても4倍も高くなってしまい、短縮で公開してもコスト分も回収できないと思われました。そこで長編作品へと発想の転換がなされたのです。

幼い頃よりコンサートに行っている音楽目(映画)で感じ取っていたウォルトと、ドラマと感情を音(音楽)で表現する達人レオポルトは、まさに《理想的なカップル》であったかも知れません。こうして「シリー・シンフォニー」と仮題(ワーキング・タイトル)がつけられ、まず選曲、ストーリー、録音、アニメ製作の順で完成に向かっていったのです。

初のステレオ・サラウンド・システム

製作の最高顧問となったベン・シャープスティン(初期のミッキー・マウス・シリーズからの監督で、当時ウォルトの右腕は次のように語っています。

「商品費であることが決ま、ビジネスはクリエイティビティに従う、というのがウォルト独特の考え方です。ここでは長い曲も短い曲も(古典曲も現代曲も)一本の作品として創られています。結果的に、これは全く新しいコンセプトの誕生を告げるものでした。」

全く新しいスタイルの「ファンタジア」は、「ウォルト・ディズニーのコンサート・ディナー・ショー」そのものです。そのため音楽面は一層お金がかかりました。当時ハリウッドの基準では、一本の長編映画(フィクション・フィルム)の音楽予算は、高く10パーセントにすぎませんでした。ところが「ファンタジア」では、その2倍近い費用が必要でした。製作費は228万ドルで、音楽については40万ドル以上と伝えられています。

ウォルトは第一級のホールを使っているコンサート・プログラムを、そのままアニメで表現しようとしたのです。そのために映画から出てくる音を変え、強いては映画館そのものも再現させてはなりません。今日でこそマルチチャンネル、ドルビー・サラウンドといったことは、ごく当然と思われるが、1940年代当時は全くそんなことは思いもつかなかったのです。そもそも映画館から音が出るようになったのは(トーキー映画になったのは)、1927年秋のこと。そのトーキーが世界的に普及したのは1930年に入ってからのことでした。

とはいいつつも、ミッキーが1928年のデビュー作「蒸気船ウィリー」でトーキー・アニメに先鞭をつけ、そのミッキーが初のステレオ音響の完成に主演するとは、偶然にしても歴史的な出来事だったのです。

トーキー・アニメから約10年、1940年当時の映画の「音」というのは、録音用フィルムに取められた1本のサウンドトラックが巻いてあったのです。当然のことながら再生される音というのは、

スクリーンの奥にある1個のスピーカーといこと。そしてウォルトはコンサートホール4層の《音》を出すべく、録音から再生までの全システムを新しくすることにしたのでした。

今日では常識となっているマルチトラック式の録音・再生ですが、半世紀も前にこれを実行するということは、まさに革命的なことだったのです。そしてあえてファンタジサウンドと命名されたウォルトの方式は、少なくとも映画館には前方と左右に、計3系列のスピーカーを設置。上取用は別に再生専用の35ミリの映画プリントと、特製の再生機を用意するという、大掛かりな設備となったのです(50個以上のスピーカー)。

1940年11月13日、ニューヨークの大劇場ブロードウェイで「ファンタジア」は初上映。奇しくも同劇場は、以前コロニーと呼ばれた12年前の11月28日、ミッキーが「蒸気船ウィリー」で、華々しいデビューを飾った場所だったのです。

選曲にあたっては音楽評論家のディーンズ・デヴィラーも参加。彼の言葉によるイントロの内容は、①ストーリーを物語る音楽、②プロットの無い音楽ながら、一音の絵を表してくれるもの、③音楽のために存在する音楽」と三種類の音楽を、作品では収録しています。

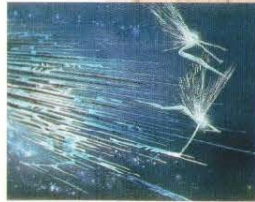
『ファンタジア』の音楽

①パッサ：トッカータとフーカ二短調

ストコフスキーと共に登場するのが、彼が世界一のオーケストラに育てあげたフィラデルフィア管弦楽団です。まず演奏するのは有名なオルガン曲をストコフスキー自身がオーケストラ用に編曲した曲(いわば演奏者が最も得意とするレパートリー)で、これはプレリュードにあたる部分で、映像の方もあまり具現性を持っていない点が、逆に効果的になっていました。

②チャイコフスキー：くるみ割り人形・組曲

①に比べる際の踊り ②中国の踊り ③雲雀の踊り ④アラビヤの踊り ⑤ロシアの踊り ⑥花のワルツ 以上5曲が繰り返されます。⑦ではマッシュルムが大活躍。子供のマッシュルムはポンパ・ロウと呼ばれています。そして、尾が長く美しい金魚が4匹、コザックを思わせるアザミの花が5つと美しい舞いを見せてくれるのです。



⑦くるみ割り人形に登場する舞娘たち。また花の踊りのシーン。

⑧デュカス：魔法使いの弟子

ミッキーが幼少の頃に帽子を手にして魔法を使います。ほうきに乗る水汲みをするのですが、これが大失敗の巻となる

のです。コフ・ヘイ曲の魔法使いの名前は Yensid。夢にスベルを解つてみると道の名前はわかるというものです。



⑧「魔法使いの弟子」のミッキー。ほうきの水汲みのシーン。

⑨ストラヴィンスキー：春の祭典

現代音楽の卵を開いたというこの名曲を、舞台を地球の生命の誕生から鳥の時代までに移し替えてディズニーが描きました。ディノゾウルス・レックスとステゴザウルスが狂喜です。

⑩ベートーヴェン：交響曲第6番「田園」

ギリシャの神々が活躍するオリンポス山を舞台に、音楽とドラマが調和。ゼウスからパラス、キュービッドまでと、実に様々なキャラクターが登場するのが楽しい場面です。



⑩牧歌的な「田園」の音楽にのって、ベカサが歌に寄り添う。

⑪ボンキエリ：時の鐘り

17世紀ヴェネチアの祭典でのパレエは、ディズニーの手にかかるとカバ、ソウ、ワニ、ダチョウの奇想天外なダンスとなります。リーダー格はヒヤシンス・ヒール、エレファント、ペン・アリ・ゲーター、それにマトモアゼル・ウパノヴァです。



⑪「時の鐘り」。ダチョウのバレリーナとワニのバレリーナたち。

⑫ムムグスキー：はげ山の一夜・シェーベルト：アヴェ・マリア

夜と朝、静と高とを激しく対立させた構成となっています。グロテスクで迫力充分の魔王と、清らかな巡礼の愛と対峙。特にラストはマルティン・キャメットを使った楽行さのある映像に、素晴らしいものがあります。この部分が完成したのは文字通り公開で前でもあったのです。



The Mushroom Dancers



⑫「春の祭典」。前奏音楽が響く中、空飛ぶ鳥の死体が見える。



Mlle. Upanova



⑬「はげ山の一夜」ではフルフルスの夜に悪魔が舞う。



⑭「アヴェ・マリア」のラストに合わせて進む舞臺二太の行列。

実写映画とアニメーション

現実と幻想

実写映画とアニメーション映画作家としてウォルト・ディズニーが認められたのは、1923年つまり22歳の彼が作った『アリスの不思議の国』でした。これはライブ・アクション（実際に人間が演じる画）とアニメが一緒にあったものだったのです。

このように出発点からウォルトには、現実（ライブ・アクション）と幻想（アニメ）とが一緒になって構成されたユニークな世界がすでに創り出されていたのです。

ミッキー・マウスから編みアニメへと大躍進を遂げたウォルト・ディズニーでしたが、世界中を巻き込んだ大戦争には打つ手がありませんでした。そして戦後すぐに元通りになったかといえは遅く、1919年から1945年の終戦。そして更にスタジオが完全に復興するまでの1950年までが、ディズニーと彼のチームにとって最も辛い時代だったのです。この時ウォルトは手薄になったスタッフを有効に使い、能率のいい新しい映画作りを始めたのです。それが後のアリス・シリーズを思わせるような、ライブ・アクションとアニメを一緒にしたものであり、何本かの短編を一本の長編にまとめた作品であり、ライブ・アクションをメインにした従来のない新映画になったのです。

『リラクタント・ドラゴン』

1941年の『リラクタント・ドラゴン』は、魔法の王国ディズニースタジオ見学は、記録映画風の劇映画で、かつ短編アニメが3本も見られる作品で、この種のものとしてはディズニー初の映画となったのです。また『白雪姫』のヒットでパーバークに今日あるスタジオを新設しましたが、あまりにも多くの見学者が押し寄せたため、かんじんのアニメ製作に支障をきたすほどでした。



●『リラクタント・ドラゴン』のドラゴンは自來水で描いたもの。



●騎士とドラゴンは村人たちが誘導されるため、真実の図を打つ。

そこでムービー作家で俳優でもあるロバート・ベンチレーがスタジオを訪れて、ディズニー・アニメーションの出来るまでを、具体的に説明するといったセミ・ドキュメンタリー・タッチの映画を製作。これには実写のこの映画のほかに楽しいドラゴンと少年の友情を描いた『リラクタント・ドラゴン』、天才赤ちゃんの話『ウィームズ坊や』、グーフィーのまめけふりを描いた『グーフィーの名騎士』の3本のアニメが収められています。

『ラテン・アメリカの旅』と三人の騎士



●チチカカ湖のほとりにある『ラテン・アメリカの旅』の石碑。

戦時中の1941年はウォルトにとっても、またスタジオにとっても経済問題、人員不足など多くの問題を抱えた年となりました。そんな折、アメリカの国務省からウォルト・ディズニーは南米に人気があるの、合衆国の『親善大使』として現地に訪問してほしいとの打診があったのです。

すっかり乗り気になったウォルトは自ら16ミリの撮影機を携えて南米へ出かけたのです。この小型カメラに収められたフィルムと、アニメーションとが合成されて出来たのが、『ラテン・アメリカの旅』です。これが初来上映された際は、それまでの記録を超える大ヒットとなったのです。

この『ラテン・アメリカの旅』/サリュース・アミーゴは、ドナルドダックの『チチカカ湖』、『小さな郵便飛行機ペロロ』、グーフィーの『カウボーイ・ガウチョ』そしてドナルドがオウムのホセ・キャリオカと共演する『ブラジルへの旅』の4本のアニメで構成されています。タイトルソングは、1940年代のミュージック・スタッフであるチャールズ・フルコットがスコアを書き、南米色豊かな作品になりました。また、ブラジル編で用いられた曲は後にサンバのスタンダード・ナンバーになっている名曲『ブラジル』です。

その『ラテン・アメリカの旅』の続編として作られたオムニバス作品が『三人の騎士』です。『南米探検』といえは合衆国と地続きの、メキシコを中心とした地域を忘れることはできません。そこでドナルドダックがこの作品でメインの人物となっています。親善のお返しとして、彼の誕生日に各国からプレゼントが届けられて、次々に開けていくという趣向になっています。『ラテン・アメリカの旅』で人気を得たホセ・キャリオカに加えて、メキシコのオンドリ、パンチーも登場。にぎやかな一編に仕上がりました。ライブ・アクションとアニメの合成も後の『メリー・ポピンズ』を思わせる楽しい構成となっています。



●『三人の騎士』でドナルドたちはブラジルのバイア行きの舟に乗る。

す。『不思議なとり』と『さむが屋のペンギン』、『パプリコ/アラタラン/空飛ぶロバ』『ホセ・キャリオカとブラジルの旅』『メキシコのピニャータ』の3部構成です。タイトル曲はマニエル・エスベロンの作曲（エルネスト・コルサルールの作曲を得て作った『睡魔のハリス』が原曲）で、ブラジル編にはスロー・リンパの名曲『バイア』が。しかし何となくも旧作の曲はメキシコ編で『ユー・ピロツグ・トゥ・マイ・ハート』です。

『南部の唄』

アニメとライブ・アクションの合成テクニックについては、すでにふれた通り、『リラクタント・ドラゴン』、『ラテン・アメリカの旅』や『ファンタジア』のミッキーとストコフスキとの握手シーン、あるいは『三人の騎士』で部分的に用いられたが、本格化したのは1945年の『南部の唄』からでした。

話し上手のリーマスおじさんが、子供たちにせがまれてお話を始める——と、そのお話部分はアニメとなり、道のいいウサギと悪役コンビのキツネ、クマとの知恵比べが展開していくという構成。ライブ・アクションとアニメの比率は7対3程度で、画面の上での合成部分は限られたものの、撮影には充分な下ごしらえ（人形な絵コンテ・ストーリーボードの作成）をしながら、①ライブ・アクション部分を撮影 ②アニメ（合成シーンは①のフィルムを基に作成） ③合成という手順で製作されたのです。

この『南部の唄』というのは文字通り、昔のアメリカ南部を舞台にした物語。お屋敷のジョニー・坊ちゃん（ボビー・ドリスコール）と、黒人老人アンクル・リーマス（ジェームズ・バスケット）の話が中心で、共演者はジョニーの相手役ジョニーに可愛らしいアナ・パットン（彼女がボビー・ドリスコールと共に後のディズニースターとなりました）。それに女中のテンピーおばさんに『麗と共に去りぬ』で大好評



●『南部の唄』。少年ジョニーと少女ジョニーは実写。

を得たハッディ・マクダニエルと充実したキャストで制作した。後々の作品は録画映画へ進出するウォルト・ディズニーの大きな布石となったのです。音楽はアニメ部分をボール・スミス、録画画（ライブ・アクション）部分をダニエル・アムフィシアトフ、この両者の監督役としてチャールズ・フルコットが音楽監督に立ちました（チャールズにいわせると、ロシア出身のダニエルに伝統あるアメリカ南部色を出したスコアとは皮肉な要求でしたが、ウォルトは強くその点を押したのだそうです）。

映画のオリジナル・スコアとしたうえに、3名はアカデミー賞候補とまでになりましたが、名譽ある受賞は主題歌賞でした。レイ・ギルバート作詞、アリー・リューバル作曲の『ジッパ・ディ・ドゥ・ダー』は、まったくのひたひたで、愉快なことが沢山ある『南部の唄』そのものとなっています。この歌はまたリーマスおじさんがお話を始めるシグネチャー・ソングともなっています。そしてこの歌をきっかけに、アニメによるフォークロア（伝承民謡）に入っていくのです。

『南部の唄』はウォルトが子供の頃より大好きだった話で、彼を全部を長編アニメで製作したかったものの、資金難から断念をそのまゝ映画に出す。普通の録画映画にウエイトが移った作品



●スブラッシュ・マウンテンで、でもおなじみの、ウサギとクマの二人組。

となったのです。

いずれにしても『南部の唄』の成功は、ウォルトに1920年代初めの『アリス・シリーズ』の頃の初めと、ファンタスティックな感動をよみがえらせたようにした。続く1947年『こくま物語』/ミッキーと豆の木（ファン・アンド・ファンシー・フリー）のイントロをはじめ、1950年代からの様々な記録映画や録画映画。そして自ら出演するTV番組でのドナルドとのかやりとりなど、ライブ・アクション&アニメを巧みに一体化する手法は随所に用いられました。

また日本では公開されなかった録画映画で評価すべきものに、1939年の『わが家にかくも愛しき』があります。これは20世紀初頭の黒人色をよく出した作品です。ウォルトは『この映画を私は特に身近なものに感じています。何故かといえは、ミズーリで兄と一緒に育った子供時代の生活ぶりがあるのです』と語っています。



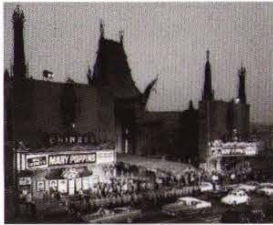
Donald Duck

Panchito

José Carioca



Pedro



◆チャーターズ・シアターで行われた「メリー・ポピンズ」のプレミアショー



◆主演のジュリー・アンドリュースとディック・ヴァン・ダイク

『メリー・ポピンズ』

そして、「南部の町」から更に前年だった1964年に、ウォルトが描いていた夢の世界が完成したのです。

この「メリー・ポピンズ」の成功は「白雪姫」に勝るとも劣らないものでした。ウォルトは、トラヴァース夫人の原作に見られる口やかましい乳母のメリー・ポピンズを、若くて優雅のあるキャラクターに変え、「見る」ことを主眼としたショー的な作品に仕上げたのです。メリー・ポピンズが魔法を使って子供たちを不思議な世界へ案内するこのファンタジーは、大ヒットを記録、メリー・ポピンズ役のジュリー・アンドリュースの最優秀主演女優賞や特殊効果部門賞をはじめ、ちつものオスカーを受賞したのです。シャーマン的の作曲した「サム・ナム・チェリー」は、まさにディズニー史上に残るヒットソングとなったのは周知の事実です。

この会作はスーパーヒット作となりましたが、発表から2年後の1966年12月15日、10日前に55歳の誕生日を迎えたばかりのウォルト・ディズニーは不眠の人となっていました。夢と現実の世界が渾然一体となった「メリー・ポピンズ」は、ウォルト・ディズニーのみが創り得た傑作であり、また彼のフィナーレを飾るにふさわしい作品となったのです。

「ハリウッド史上、空前の傑出したエンタテインメントだ」とアメリカのサタデー・レヴュー紙が絶賛したように、劇場版、アニメ、そして音楽の三要素が実に見事に溶け合っており、「全く新しい世界」「それこそウォルトが永らく望んだもの」を創り出したのです。

音楽を担当したのはリチャード・M・シャーマンとロバート・B・シャーマンの兄弟です。彼らは1950年代末にディズニー・プロに参加、ついに大輪の花を咲かせたのです。古き良き時代のアメリカの音楽、例えばヴォードヴィルやバーバーストップ、カルデットの雰囲気や今日に伝えるセンスを持ち合わせる彼らは、ウォルトとの絶妙のコピを發揮したのです。

この作品には10曲以上のナンバーがありますが、重要なものを次に紹介しておきます。

♪古い鎖をたち切て♪

時代は1910年頃のロンドン。チェリー・ツリー・レーン（さくら木通り）にある銀行家のジョージ・バンクス家を舞台に展開します。そのバンクス夫人は家事より婦人参加権獲得の方に強い関心を持っていて、マーチンボにのって、「スクラム組んで戦おう！」と歌ってしまうのです。

♪ひととさじのお砂漠♪

そのバンクス家の《理想の乳母さん》を求める広告に惹き、空から傘さして舞い降りてきたのがメリー・ポピンズ。2人の子供に砂漠で甘くした《お菓》を飲ませるシーンで歌う、陽気な明るい歌になっています。

♪ナム・ナム・チェリー♪

子供たちを連れて公園へ出掛けると、そこでは大道商家にし

てワンマンバンドのパートがこの歌を取っています。また別のシーンでは探検隊のパートたちとメリー・ポピンズのナンバーとなります。ワルツ・テンポのチャタリングな曲です。

♪楽しい休日♪

同じ公園での出来事。パートが強く絵の中に魔法でもかけられたかのように入ってしまうメリー・ポピンズたち。そこはカントリー・フェア。パートが歌うのをうけて、メリー・ポピンズも歌い出します。

♪スーパーカリフラリステックエクスピアリド〜ジャスト

何とも長いタイトルながら、心がときうきしてくるイメージにあふれています。このほかともいえる長い長いタイトルは、ウォルトを満足させるべく、シャーマン兄弟が子供の頃サマーキャンプで学んだ不思議な言葉を基にして作られたもの。メリー・ポピンズに載って、メリー・ポピンズとパートが歌います。

♪2ペンスを揃に（胸に胸を）♪

同じようなおばさんか噂ポル〜学校のそばで胸の胸を売っているのを見たメリー・ポピンズは、バンクス家の子供たちにこのことを歌にして聞かせます。ゆったりとした3拍子のリズムで感情豊かに歌われるナンバーは、ウォルトのお気に入りです。

♪タコをあげよう♪

ハッピーエンドのフィナーレでバンクス一家が唄って歌うナンバーです。金儲けだけが人生だったバンクス氏も、政治運動に熱心だった夫人も、家庭生活、そして夫と妻、親と子の絆の大切さを知り、忘れていた幸せをとり戻したのです。

『ロジャー・ラビット』

さて偉大なリーダー、ウォルト亡き後の1967年〜1983年までに作られた、ライブ・アクションとアニメを一体化した作品は「メリー・ポピンズ」の成功をそのまま引き継いだ「ベッドかざりとほうき（1973年）」と、気のいい家電エリットと少年の友情を描いた「ピートとドラゴン（1977年）」の2作品でした。これらは良くて作品はありましたが、巨大なウォルトの影から抜けて新しいものを創り出すには、今こそ時間が必要だったようです。

この後に1984年、マイケル・アイズナーがウォルトの甥（ウォルトの兄ロニー・ディズニーの息子）でアニメ製作に熱心なロニー・B・ディズニーの求めに、ババマウント映画のトップの座を投げ捨ててディズニー社に参加。これより今日に至る新体制が整ったのです。

その好例が1988年の『ロジャー・ラビット』で、1980年代の新ディズニーのシンボルともなりました。信じ難いぐらいのライブ・アクションとアニメの一体化は観客をうならせた大ヒット。カート・ウーサン・キャラクターのロジャーがボブ・ホス・キンス扮する私立探偵エディ・ヴァリアントと同じ背景の中を飛び回るさまは、ウォルトのモットーだった「よりリアルに」をまさに実践しています。この台成の見事さは、アニメ史上初の3Dアニメ（影について立体的に見えるアニメ）によるものです。

ディズニー・ルネッサンス

～戦後のディズニー

大戦の痛手

1940年2月15日に公開され、久々の会心作となった『シンデレラ』は作品の出来ばえの素晴らしさと、興行的な大ヒットが重なった作品でした。ひいてはディズニー・スタジオが「白雪姫」「ファンタジア」を放った狼のバーを取り戻したことを証明したのです。また永らく続いた財政上の危機から、急テンポで転ずるチャンスをつかんだことにもなりました。

ウォルト・ディズニーの兄で、もっぱら会社の簿記を担当してきたロイが、「1940年を『シンデレラ』の年にしよう」と語ったほど、スタジオに従来の明るい色が再び差してきたことを喜んだといえます。

それまでウォルトが創り出したアニメは《子供心》を大にめたもので、ホームエンタテインメントの最たるものでした。かつまた会社は1930年代の昔から、国内と海外の市場が（ほぼ五分五分）という国際企業でもありました。そのため、1939年秋からヨーロッパで始まった第2次世界大戦は、そのまま市場の半分を失うことを意味し、大きな痛手となってしまったのです。「まったく弟のウォルトという奴は、良いもの、面白いもの、新しいものを創ろうと、こちらの資金ぐりの苦労を見て見ぬ《ふり》をして、がむしやに金をかける癖がある」といったロイ・ディズニーの嘆きも聞えてくる程に、ウォルトは作品に資金を投入したのです。ところが『ファンタジア』や『パンピ』だけでなく、長編アニメの第一作『白雪姫』もまた完成してアメリカで大ヒット。*次は海外で太に儲けさせてもらおう」という時に戦争のキナ臭いにおいが漂い始めたのです。

当時、日本とアメリカの関係は日本がドイツ、イタリアと同様のファシズムの道を歩んでいたために、悪逆の意を次第に増していったのです。『白雪姫』がアメリカで公開されてから4年後の1941年には、日本とアメリカは太平洋をはさんで戦争という最悪の事態に。そのため『白雪姫』の日本公開は戦後、それもら年ほど過ぎた1950年9月25日、東京の帝国劇場でした。

こうして1940年代のディズニーは、低予算で作品を創ることを模索しなくてはならなかったのです。そこで手帳が明かすアニメを少なくして、ライブ・アクション（人間の演技が中心の映画）を多くする方法と、パッケージの中と呼ばれる、数本の短編を組み合わせたオムニバス作品を生み出したのです。

『シンデレラ』の成功で製作と経営の両部門を建て直すに至る1940年代後半（戦後の復興期）の間に、ディズニーは苦心しながらも4本のアニメを発表しています。

『メック・マイン・ミュージック』（1946）

クラシック音楽の『ファンタジア』に対し、その本ビュラー音楽家として企画された作品。映像も音楽も、それぞれスタイルを異にした10本のエピソードが用意されています。

♪谷間のあそび♪ アメリカのトラディショナル・フォークソングです。

♪あんなジャスが大好き♪ ビッグバンドの雄偉な〜グッ



◆メック・マイン・ミュージックの1シーン



◆同上。ポピンズは音楽にのって、乗るたが降りたす構成になっている。

ドマン楽団の演奏を、若者の踊りで描いています。

♪青いさなみ♪ ここに用いられたい羽の白さのアニメは本来『ファンタジア』用に準備されたものでした。

♪あなたなしでは♪ アンディ・ラッセルの名テノールで聞かせるブルーなバラードです。

♪猛打者ケイシー♪ コメディアン、ジャッキー・コロナの名調子が面白いナンバー。オチもきいています。

♪ふたつのシルエット♪ 人気歌手ダイナ・ショアが担当。彼女はウォルトが最も気に入っていた歌手でもありました。

♪ピーターと狼♪ 作曲したセルゲイ・プロコフィエフ自らがアニメ化してと、ウォルトに提供した作品。

♪君去り後♪ クラリネット、ピアノ、ベース、ドラムスの演奏がそのままアニメに。ベニー・グッドマン楽団の名演。

♪帽子のジョニーとアリスの恋♪ 歌手はアンドリュース・シスターズ。ユニークな恋愛喜劇です。

♪くじらのユート♪ メトロポリタン・オペラ座で歌いたい、くじらの物語。ネルソン・エディの歌声が振替でした。

『こく物語/ミッキーと豆の木』（1947）

中編アニメの2本立てです。オープニングには「ピアノのジミニー・クリケットが案内役となって登場します。第1部は子くまのボンゴとルルベルの、かわいいミュージカル・ストーリー。歌はダイナ・ショアです。

第2部は腹話術師エディ・バーガンと彼の人形チャーリー・マッカーシーとモーター・スナードが進行役を担当。「ミッキーと豆の木」を観望します。ミッキーがグーフィー、Donaldを従えて金のハーブを盗んだ巨人を退治する話です。この話から、ミッキーの声はウォルト・ディズニーに代わって、ジェイムズ・マクナルドになりました。また巨人の声は「白雪姫」で《くしゃみ》を担当したリリー・ギルバートです。



●「メロディ・タイム」
「くまんばちのブギ」の
1シーン。



●「メロディ・タイム」
「サンバは楽し」の、実写
とアニメの合成作品。

「メロディ・タイム」(1948)

7話からなるミュージカル・オムニバス作品です。

♪冬の出来事♪ 女優でもあるフランシス・ラングフォートの歌声にのせての、ソリすべりのナンパです。

♪くまんばちのブギ♪ フレディ・マーティン率いるブギウギ・ジャズ。セミクラシックの名曲「熊蜂の飛行」のアレンジ。

♪リンゴ作りのジョニー♪ デニス・デイの語りのような歌声による昭和史時代の伝説です。

♪小さな恋し給♪ アンドリュー・シスターズが歌います。作者は「ジャック・ディール・ドゥー・ダー」のアリ・リューベル。

♪丘の上の一本の木♪ 台詞の名門フレッド・ワーリングのパフォーマンスが絶頂的です。

♪サンバは楽し♪ ドナルドダック、ボセ・キヤリオカ、それにアラグアン・バードのトリオが、ハモンドオルガンの名手エセル・スミスとコララス・グループのタイニン・シスターズと一緒にラテン音楽のショーを演じます。

♪青い月影♪ カウボーイ・スターのロイ・ロジャースが愛馬トリガと共に出演。サンズ・オブ・コニャニクス・シスターズで西部劇「ベコ・ビル」を歌い、コミカルなアニメが展開します。

♪イカボードとトード氏」(1949)

2本立ての作品になっていますが、当初の企画では「トード氏(ヒキガエルの男)」だけで1本になるはずでした。しかし、何本かのオムニバスが製作されたあとだったと、第2次世界大戦後の復興を早めてスタジオ再建を急ぎたかったウォルトは、1本だけの長編は無理があると判断したのです。

「トード氏」はイギリスの児童文学者ケネス・グレアムの「たのしい川辺」を原作にした作品で、うめぼれ屋で遊び人に賣したカエルのトード氏の物語です。

「スリーピー・ホロウの伝説」はアメリカの小説家ワシントン・アーヴィングが伝説に基づいて書いた作品のなかの一つ。街の学校に教師としてやって来たイカボード氏が、資産家の娘で美人のカトリナに接近。これを阻止しようと、土地っ子のプロムが強い伝説を聞かせて、先生を陥み上げさせるのです。歌とナレーションはクルーナーの代表ビッグ・クロスビーでした。

「スリーピー・ホロウの伝説」はアメリカの小説家ワシントン・アーヴィングが伝説に基づいて書いた作品のなかの一つ。街の学校に教師としてやって来たイカボード氏が、資産家の娘で美人のカトリナに接近。これを阻止しようと、土地っ子のプロムが強い伝説を聞かせて、先生を陥み上げさせるのです。歌とナレーションはクルーナーの代表ビッグ・クロスビーでした。

「スリーピー・ホロウの伝説」はアメリカの小説家ワシントン・アーヴィングが伝説に基づいて書いた作品のなかの一つ。街の学校に教師としてやって来たイカボード氏が、資産家の娘で美人のカトリナに接近。これを阻止しようと、土地っ子のプロムが強い伝説を聞かせて、先生を陥み上げさせるのです。歌とナレーションはクルーナーの代表ビッグ・クロスビーでした。

「スリーピー・ホロウの伝説」はアメリカの小説家ワシントン・アーヴィングが伝説に基づいて書いた作品のなかの一つ。街の学校に教師としてやって来たイカボード氏が、資産家の娘で美人のカトリナに接近。これを阻止しようと、土地っ子のプロムが強い伝説を聞かせて、先生を陥み上げさせるのです。歌とナレーションはクルーナーの代表ビッグ・クロスビーでした。

「スリーピー・ホロウの伝説」はアメリカの小説家ワシントン・アーヴィングが伝説に基づいて書いた作品のなかの一つ。街の学校に教師としてやって来たイカボード氏が、資産家の娘で美人のカトリナに接近。これを阻止しようと、土地っ子のプロムが強い伝説を聞かせて、先生を陥み上げさせるのです。歌とナレーションはクルーナーの代表ビッグ・クロスビーでした。

「スリーピー・ホロウの伝説」はアメリカの小説家ワシントン・アーヴィングが伝説に基づいて書いた作品のなかの一つ。街の学校に教師としてやって来たイカボード氏が、資産家の娘で美人のカトリナに接近。これを阻止しようと、土地っ子のプロムが強い伝説を聞かせて、先生を陥み上げさせるのです。歌とナレーションはクルーナーの代表ビッグ・クロスビーでした。

「スリーピー・ホロウの伝説」はアメリカの小説家ワシントン・アーヴィングが伝説に基づいて書いた作品のなかの一つ。街の学校に教師としてやって来たイカボード氏が、資産家の娘で美人のカトリナに接近。これを阻止しようと、土地っ子のプロムが強い伝説を聞かせて、先生を陥み上げさせるのです。歌とナレーションはクルーナーの代表ビッグ・クロスビーでした。

「スリーピー・ホロウの伝説」はアメリカの小説家ワシントン・アーヴィングが伝説に基づいて書いた作品のなかの一つ。街の学校に教師としてやって来たイカボード氏が、資産家の娘で美人のカトリナに接近。これを阻止しようと、土地っ子のプロムが強い伝説を聞かせて、先生を陥み上げさせるのです。歌とナレーションはクルーナーの代表ビッグ・クロスビーでした。

「スリーピー・ホロウの伝説」はアメリカの小説家ワシントン・アーヴィングが伝説に基づいて書いた作品のなかの一つ。街の学校に教師としてやって来たイカボード氏が、資産家の娘で美人のカトリナに接近。これを阻止しようと、土地っ子のプロムが強い伝説を聞かせて、先生を陥み上げさせるのです。歌とナレーションはクルーナーの代表ビッグ・クロスビーでした。

「スリーピー・ホロウの伝説」はアメリカの小説家ワシントン・アーヴィングが伝説に基づいて書いた作品のなかの一つ。街の学校に教師としてやって来たイカボード氏が、資産家の娘で美人のカトリナに接近。これを阻止しようと、土地っ子のプロムが強い伝説を聞かせて、先生を陥み上げさせるのです。歌とナレーションはクルーナーの代表ビッグ・クロスビーでした。

「スリーピー・ホロウの伝説」はアメリカの小説家ワシントン・アーヴィングが伝説に基づいて書いた作品のなかの一つ。街の学校に教師としてやって来たイカボード氏が、資産家の娘で美人のカトリナに接近。これを阻止しようと、土地っ子のプロムが強い伝説を聞かせて、先生を陥み上げさせるのです。歌とナレーションはクルーナーの代表ビッグ・クロスビーでした。

「スリーピー・ホロウの伝説」はアメリカの小説家ワシントン・アーヴィングが伝説に基づいて書いた作品のなかの一つ。街の学校に教師としてやって来たイカボード氏が、資産家の娘で美人のカトリナに接近。これを阻止しようと、土地っ子のプロムが強い伝説を聞かせて、先生を陥み上げさせるのです。歌とナレーションはクルーナーの代表ビッグ・クロスビーでした。

「スリーピー・ホロウの伝説」はアメリカの小説家ワシントン・アーヴィングが伝説に基づいて書いた作品のなかの一つ。街の学校に教師としてやって来たイカボード氏が、資産家の娘で美人のカトリナに接近。これを阻止しようと、土地っ子のプロムが強い伝説を聞かせて、先生を陥み上げさせるのです。歌とナレーションはクルーナーの代表ビッグ・クロスビーでした。

「スリーピー・ホロウの伝説」はアメリカの小説家ワシントン・アーヴィングが伝説に基づいて書いた作品のなかの一つ。街の学校に教師としてやって来たイカボード氏が、資産家の娘で美人のカトリナに接近。これを阻止しようと、土地っ子のプロムが強い伝説を聞かせて、先生を陥み上げさせるのです。歌とナレーションはクルーナーの代表ビッグ・クロスビーでした。

ゴッドマザーは丸状をおびて、下半身が非常に安定した優しい《おばさま》として登場しています。シンデレラが自家から遠く旅めるキャッスル(お城) 御の主人は、ハンサムの上の王子様(白雲姫)の場合と同じくプリン・チャーミングと呼ばれています。そして背が低く丸いお婆と白い髪がユーモラスな王様と、良き相談役のデューク侯爵がまわりを固めています。

やはり動物たちはディズニーおにえに、ネズミが登場します。少しやせているジャックと太目のガスのコンビが先導して、シンデレラの良き友だちとなっています。そしてその天敵といえは猫。茶々しく恐しい猫が娘母のお気に入り入りのルシファーです。加えて老犬のブルーノと老馬のメイジャーがなかなかのバイプレーヤーで活躍しています。

ところで「シンデレラ」において、ウォルトが《きわめて個人的な理由》から創造したのが太ちゃん王様でした。製作中に彼の長女ダイアナの結婚話が持ち上がり、「真の顔が見たくて見なくて、チャーミング王子を早く結婚させようとするのは、私の父なのよ」と、ダイアナは後日談として語っています。

また、主題歌のほとんどは、ウォルト自らのN.Y.でスカウトした、マック・デヴィッド、ジェリー・リヴィングストン、それにアル・ホフマンの3人組が担当しています。

♪シンデレラ♪ 文字通り彼女のテーマ・ソングで、「世界でいちばんスデキな女性」と謳い上げられています。

♪夢はほそかに♪ 「なんてあれ夢を信じれば、きつという日にカエルの靴が橋がかかる」というシンデレラの心情を伝え、ソングライターチームがウォルトのために最初に作ったこの曲で、彼らはウォルトのお気に入りになりました。

♪スウィート・ナイチンゲール♪ シンデレラが小鳥たちを相手に自分の部屋で歌います。

♪仕事のうた♪ ジャックやガスをはじめ、ネズミや小鳥たちがデキバキとドレスを作るシンデレラの仕事を手伝います。

♪シンデレラ♪ 文字通り彼女のテーマ・ソングで、「世界でいちばんスデキな女性」と謳い上げられています。

♪夢はほそかに♪ 「なんてあれ夢を信じれば、きつという日にカエルの靴が橋がかかる」というシンデレラの心情を伝え、ソングライターチームがウォルトのために最初に作ったこの曲で、彼らはウォルトのお気に入りになりました。

♪スウィート・ナイチンゲール♪ シンデレラが小鳥たちを相手に自分の部屋で歌います。

♪仕事のうた♪ ジャックやガスをはじめ、ネズミや小鳥たちがデキバキとドレスを作るシンデレラの仕事を手伝います。

♪シンデレラ♪ 文字通り彼女のテーマ・ソングで、「世界でいちばんスデキな女性」と謳い上げられています。

♪夢はほそかに♪ 「なんてあれ夢を信じれば、きつという日にカエルの靴が橋がかかる」というシンデレラの心情を伝え、ソングライターチームがウォルトのために最初に作ったこの曲で、彼らはウォルトのお気に入りになりました。

♪スウィート・ナイチンゲール♪ シンデレラが小鳥たちを相手に自分の部屋で歌います。

♪仕事のうた♪ ジャックやガスをはじめ、ネズミや小鳥たちがデキバキとドレスを作るシンデレラの仕事を手伝います。

♪シンデレラ♪ 文字通り彼女のテーマ・ソングで、「世界でいちばんスデキな女性」と謳い上げられています。

♪夢はほそかに♪ 「なんてあれ夢を信じれば、きつという日にカエルの靴が橋がかかる」というシンデレラの心情を伝え、ソングライターチームがウォルトのために最初に作ったこの曲で、彼らはウォルトのお気に入りになりました。

♪スウィート・ナイチンゲール♪ シンデレラが小鳥たちを相手に自分の部屋で歌います。

♪仕事のうた♪ ジャックやガスをはじめ、ネズミや小鳥たちがデキバキとドレスを作るシンデレラの仕事を手伝います。

♪シンデレラ♪ 文字通り彼女のテーマ・ソングで、「世界でいちばんスデキな女性」と謳い上げられています。

♪夢はほそかに♪ 「なんてあれ夢を信じれば、きつという日にカエルの靴が橋がかかる」というシンデレラの心情を伝え、ソングライターチームがウォルトのために最初に作ったこの曲で、彼らはウォルトのお気に入りになりました。

♪スウィート・ナイチンゲール♪ シンデレラが小鳥たちを相手に自分の部屋で歌います。

♪仕事のうた♪ ジャックやガスをはじめ、ネズミや小鳥たちがデキバキとドレスを作るシンデレラの仕事を手伝います。

♪シンデレラ♪ 文字通り彼女のテーマ・ソングで、「世界でいちばんスデキな女性」と謳い上げられています。

♪ビビディ・バビディ・ブー♪ フェアリー・ゴッドマザーの《おまじないソング》です。まさにディズニー・マジックが広がります。シンデレラのボスに美しいドレスに、ネズミは白馬にカボチャは馬車に、馬は御者に、犬は従僕に変身します。

♪これが恋かしら♪ 別名「シンデレラ・ワルツ」と呼ばれる歌です。お城での舞踏会のシーンで用いられ、王子様はシンデレラを《ひとりじめ》して踊り続けます。

《声の出演者》

アイリーン・ワッツ(シンデレラ)、ウィリアム・フィッツ(プリン・チャーミング)、ウェルマ・ウェルン(フェアリー・ゴッドマザー)、ジェイムズ・マクナルド(ネズミのジャック&ガス)他

「不思議の国のアリス」(1951)

1923年、大志を抱いてカリフォルニアにやって来た若きウォルトが、最初に手がけたのが《アリス・コメディ》のシリーズだったという、彼は《アリス》に執着し続けてきました。で、長編で製作しようという計画は1930年代初めからストーリー会議にかけられたものの、決定案がなく延び延びになっていました。主人公の性格、ルイス・キャロルの原作をどう描くか、ウォルト自身迷っていたのです。しかし、1949年になって原作のジョン・デニールの補綴に基づいたキャラクター作りが決定、卓越した映像美が出来上がり、今日の《シンデレラ》に劣らない評価を受けるようになったのです。

音楽に関して、ウォルトは再びニューヨークのティンパン・アレイを訪れ、今度はサミー・フェイスとボブ・ヒラーのコンビを発見したのです。彼らは全編に様々なミュージカル・ナンバーを散りばめ、これらはユニークな作品へと仕上がりました。

音楽に関して、ウォルトは再びニューヨークのティンパン・アレイを訪れ、今度はサミー・フェイスとボブ・ヒラーのコンビを発見したのです。彼らは全編に様々なミュージカル・ナンバーを散りばめ、これらはユニークな作品へと仕上がりました。

音楽に関して、ウォルトは再びニューヨークのティンパン・アレイを訪れ、今度はサミー・フェイスとボブ・ヒラーのコンビを発見したのです。彼らは全編に様々なミュージカル・ナンバーを散りばめ、これらはユニークな作品へと仕上がりました。

音楽に関して、ウォルトは再びニューヨークのティンパン・アレイを訪れ、今度はサミー・フェイスとボブ・ヒラーのコンビを発見したのです。彼らは全編に様々なミュージカル・ナンバーを散りばめ、これらはユニークな作品へと仕上がりました。

音楽に関して、ウォルトは再びニューヨークのティンパン・アレイを訪れ、今度はサミー・フェイスとボブ・ヒラーのコンビを発見したのです。彼らは全編に様々なミュージカル・ナンバーを散りばめ、これらはユニークな作品へと仕上がりました。

音楽に関して、ウォルトは再びニューヨークのティンパン・アレイを訪れ、今度はサミー・フェイスとボブ・ヒラーのコンビを発見したのです。彼らは全編に様々なミュージカル・ナンバーを散りばめ、これらはユニークな作品へと仕上がりました。

音楽に関して、ウォルトは再びニューヨークのティンパン・アレイを訪れ、今度はサミー・フェイスとボブ・ヒラーのコンビを発見したのです。彼らは全編に様々なミュージカル・ナンバーを散りばめ、これらはユニークな作品へと仕上がりました。

音楽に関して、ウォルトは再びニューヨークのティンパン・アレイを訪れ、今度はサミー・フェイスとボブ・ヒラーのコンビを発見したのです。彼らは全編に様々なミュージカル・ナンバーを散りばめ、これらはユニークな作品へと仕上がりました。

音楽に関して、ウォルトは再びニューヨークのティンパン・アレイを訪れ、今度はサミー・フェイスとボブ・ヒラーのコンビを発見したのです。彼らは全編に様々なミュージカル・ナンバーを散りばめ、これらはユニークな作品へと仕上がりました。

音楽に関して、ウォルトは再びニューヨークのティンパン・アレイを訪れ、今度はサミー・フェイスとボブ・ヒラーのコンビを発見したのです。彼らは全編に様々なミュージカル・ナンバーを散りばめ、これらはユニークな作品へと仕上がりました。

音楽に関して、ウォルトは再びニューヨークのティンパン・アレイを訪れ、今度はサミー・フェイスとボブ・ヒラーのコンビを発見したのです。彼らは全編に様々なミュージカル・ナンバーを散りばめ、これらはユニークな作品へと仕上がりました。

音楽に関して、ウォルトは再びニューヨークのティンパン・アレイを訪れ、今度はサミー・フェイスとボブ・ヒラーのコンビを発見したのです。彼らは全編に様々なミュージカル・ナンバーを散りばめ、これらはユニークな作品へと仕上がりました。

音楽に関して、ウォルトは再びニューヨークのティンパン・アレイを訪れ、今度はサミー・フェイスとボブ・ヒラーのコンビを発見したのです。彼らは全編に様々なミュージカル・ナンバーを散りばめ、これらはユニークな作品へと仕上がりました。

音楽に関して、ウォルトは再びニューヨークのティンパン・アレイを訪れ、今度はサミー・フェイスとボブ・ヒラーのコンビを発見したのです。彼らは全編に様々なミュージカル・ナンバーを散りばめ、これらはユニークな作品へと仕上がりました。

音楽に関して、ウォルトは再びニューヨークのティンパン・アレイを訪れ、今度はサミー・フェイスとボブ・ヒラーのコンビを発見したのです。彼らは全編に様々なミュージカル・ナンバーを散りばめ、これらはユニークな作品へと仕上がりました。

音楽に関して、ウォルトは再びニューヨークのティンパン・アレイを訪れ、今度はサミー・フェイスとボブ・ヒラーのコンビを発見したのです。彼らは全編に様々なミュージカル・ナンバーを散りばめ、これらはユニークな作品へと仕上がりました。

音楽に関して、ウォルトは再びニューヨークのティンパン・アレイを訪れ、今度はサミー・フェイスとボブ・ヒラーのコンビを発見したのです。彼らは全編に様々なミュージカル・ナンバーを散りばめ、これらはユニークな作品へと仕上がりました。

音楽に関して、ウォルトは再びニューヨークのティンパン・アレイを訪れ、今度はサミー・フェイスとボブ・ヒラーのコンビを発見したのです。彼らは全編に様々なミュージカル・ナンバーを散りばめ、これらはユニークな作品へと仕上がりました。

音楽に関して、ウォルトは再びニューヨークのティンパン・アレイを訪れ、今度はサミー・フェイスとボブ・ヒラーのコンビを発見したのです。彼らは全編に様々なミュージカル・ナンバーを散りばめ、これらはユニークな作品へと仕上がりました。

♪エーイアイオーユー♪ この歌だけはディズニーのオリジナル・ウォーレスとデッド・シメーズが担当。イモ虫の歌です。

♪トゥッス・プリング♪ ドン・レイとジーン・デボールの作品で、チャップリンの歌です。

♪ベリー・グッド・アドバイス♪ 森の中で道に迷ってしまったアリスの《泣きぐも》ソング。

♪おたんじょう日じゃない日のうた♪ マック・デヴィッドら「シンデレラ」の3人組が作った歌。誕生日以外の364日を祝福するいわれ帽子屋と三月ウサギのパーティー・ソングです。

♪ベネキを連れて赤い月に♪ トカドの大行進♪ 最後のシークエンス、ハートの女王とアリスの対決に用いられたナンバー。

《声の出演者》

キャサリン・ビューモント(アリス)、エド・ウィン(帽子屋)、スターリッシュ・ホロウェイ(チャップリン)、ジェリー・コロナ(三月ウサギ)、ウェルマ・ウェルン(ハートの女王)、バット・オマリー(セイウチ、犬、双子)、ビル・トフリン(白ウサギ)、リチャード・ヘイデン(イモ虫)、ヘザー・エンジェル(アリスの姉) 他

「不思議の国のアリス」(1951)

「～アリス」と共に、「ピーターパン」もウォルトにとって、早くから自分の手でアニメにしたかった作品でした。1939年、「白雪姫」の2年後に彼は興行の権利を買い取っています。大空を自由に飛びまわり、悪い悪戯をやっつけるヒーローに、少年時代のウォルトは胸をときめかせていたでしょう。

「ピーターパン」は、スコットランド出身の小説家、ジェームス・バリーの『可愛き白い鳥』(1902年)の中に初めて登場します。これが1904年に戯曲となってまとめられたのが「ピーターパン」です。前題に《大人になろうとしなかった少年》とついていて、主人公の性格を明確に示しています。

製作が本格化したのは1949年のことで、3年がかりで完成。音楽面はビラマティックでファンタジックなスコアを生かし、ヴェランのディズニー・スタッフのオリヴァー・ウォーレスが中心となって、伝統的なディズニー・サウンドを創っています。流麗なオーケストレーション、豊かなメロディと爽やかなあるハーモニーは、「ヴォーカル・コース」を生かしたオーケストラ・サウンドに、美しく輝く作品となったのです。

♪右から2番目の星♪ メインタイトルからのオープニング曲で、サミー・カーン、サミー・フェイスの作品です。

♪さきもどるよ♪ ピーターパンが、ウェンディとジョー

♪さきもどるよ♪ ピーターパンが、ウェンディとジョー

♪さきもどるよ♪ ピーターパンが、ウェンディとジョー

♪さきもどるよ♪ ピーターパンが、ウェンディとジョー

♪さきもどるよ♪ ピーターパンが、ウェンディとジョー

♪さきもどるよ♪ ピーターパンが、ウェンディとジョー

♪さきもどるよ♪ ピーターパンが、ウェンディとジョー

♪さきもどるよ♪ ピーターパンが、ウェンディとジョー

♪さきもどるよ♪ ピーターパンが、ウェンディとジョー

♪さきもどるよ♪ ピーターパンが、ウェンディとジョー

♪さきもどるよ♪ ピーターパンが、ウェンディとジョー

♪さきもどるよ♪ ピーターパンが、ウェンディとジョー

♪さきもどるよ♪ ピーターパンが、ウェンディとジョー

ディズニーの音楽家たち

オリヴァー・ウォーレス(下の写真の右、左はウォルト)は、奇しくもウォルトが生まれたイリノイ州カゴの町にある芸術学校で音楽を学びました。ピアノとオルガンの達人で、サリント校の伴奏や、ショーのための楽団指揮者としても活躍しています。コロロピアとユニヴァーサル両スタジオで映画音楽の制作に没頭した後、1936年にウォルトのもとに参加。以後20年間、彼が手がけた短編は17本といわれています。代表作は、ドナルドの「蛇姫様」で、長編作は「ジャック」も度々「シンデレラ」「ピーターパン」「わんわん物語」など、実に1950年代(からは劇場版や記録映画も担当し、1953年に亡くなりました。そのエレガントなサウンドは印象深いものがあります。

オリヴァー・ウォーレスとポール・スミス

ポール・スミスは、ミシガン州カラムットに生まれました。ピアノ教師の父に、音楽を伝承した彼は、早くから音楽に没頭していました(スミス家は叔父さんも音楽に携わっていた典型的な音楽家です)。カリフォルニア大学で音楽をマスター、ニューヨークの名門、ジャズ・アド・音楽院にも学んでいます。ディズニー社は1936年、多岐にわたる作曲以外に音楽監督も受けました。そのため、担当した短編は70本と少なめです。「白雪姫」「ピノキオ」にも参加しましたが、注目されたのは「砂漠は生きている」や「ボクはむく犬」等、1950年代の記録映画や劇場版でした。1985年に亡くなりました。

ポール・スミスは、ミシガン州カラムットに生まれました。ピアノ教師の父に、音楽を伝承した彼は、早くから音楽に没頭していました(スミス家は叔父さんも音楽に携わっていた典型的な音楽家です)。カリフォルニア大学で音楽をマスター、ニューヨークの名門、ジャズ・アド・音楽院にも学んでいます。ディズニー社は1936年、多岐にわたる作曲以外に音楽監督も受けました。そのため、担当した短編は70本と少なめです。「白雪姫」「ピノキオ」にも参加しましたが、注目されたのは「砂漠は生きている」や「ボクはむく犬」等、1950年代の記録映画や劇場版でした。1985年に亡くなりました。

ポール・スミスは、ミシガン州カラムットに生まれました。ピアノ教師の父に、音楽を伝承した彼は、早くから音楽に没頭していました(スミス家は叔父さんも音楽に携わっていた典型的な音楽家です)。カリフォルニア大学で音楽をマスター、ニューヨークの名門、ジャズ・アド・音楽院にも学んでいます。ディズニー社は1936年、多岐にわたる作曲以外に音楽監督も受けました。そのため、担当した短編は70本と少なめです。「白雪姫」「ピノキオ」にも参加しましたが、注目されたのは「砂漠は生きている」や「ボクはむく犬」等、1950年代の記録映画や劇場版でした。1985年に亡くなりました。

ポール・スミスは、ミシガン州カラムットに生まれました。ピアノ教師の父に、音楽を伝承した彼は、早くから音楽に没頭していました(スミス家は叔父さんも音楽に携わっていた典型的な音楽家です)。カリフォルニア大学で音楽をマスター、ニューヨークの名門、ジャズ・アド・音楽院にも学んでいます。ディズニー社は1936年、多岐にわたる作曲以外に音楽監督も受けました。そのため、担当した短編は70本と少なめです。「白雪姫」「ピノキオ」にも参加しましたが、注目されたのは「砂漠は生きている」や「ボクはむく犬」等、1950年代の記録映画や劇場版でした。1985年に亡くなりました。

ポール・スミスは、ミシガン州カラムットに生まれました。ピアノ教師の父に、音楽を伝承した彼は、早くから音楽に没頭していました(スミス家は叔父さんも音楽に携わっていた典型的な音楽家です)。カリフォルニア大学で音楽をマスター、ニューヨークの名門、ジャズ・アド・音楽院にも学んでいます。ディズニー社は1936年、多岐にわたる作曲以外に音楽監督も受けました。そのため、担当した短編は70本と少なめです。「白雪姫」「ピノキオ」にも参加しましたが、注目されたのは「砂漠は生きている」や「ボクはむく犬」等、1950年代の記録映画や劇場版でした。1985年に亡くなりました。

ポール・スミスは、ミシガン州カラムットに生まれました。ピアノ教師の父に、音楽を伝承した彼は、早くから音楽に没頭していました(スミス家は叔父さんも音楽に携わっていた典型的な音楽家です)。カリフォルニア大学で音楽をマスター、ニューヨークの名門、ジャズ・アド・音楽院にも学んでいます。ディズニー社は1936年、多岐にわたる作曲以外に音楽監督も受けました。そのため、担当した短編は70本と少なめです。「白雪姫」「ピノキオ」にも参加しましたが、注目されたのは「砂漠は生きている」や「ボクはむく犬」等、1950年代の記録映画や劇場版でした。1985年に亡くなりました。

ポール・スミスは、ミシガン州カラムットに生まれました。ピアノ教師の父に、音楽を伝承した彼は、早くから音楽に没頭していました(スミス家は叔父さんも音楽に携わっていた典型的な音楽家です)。カリフォルニア大学で音楽をマスター、ニューヨークの名門、ジャズ・アド・音楽院にも学んでいます。ディズニー社は1936年、多岐にわたる作曲以外に音楽監督も受けました。そのため、担当した短編は70本と少なめです。「白雪姫」「ピノキオ」にも参加しましたが、注目されたのは「砂漠は生きている」や「ボクはむく犬」等、1950年代の記録映画や劇場版でした。1985年に亡くなりました。

ポール・スミスは、ミシガン州カラムットに生まれました。ピアノ教師の父に、音楽を伝承した彼は、早くから音楽に没頭していました(スミス家は叔父さんも音楽に携わっていた典型的な音楽家です)。カリフォルニア大学で音楽をマスター、ニューヨークの名門、ジャズ・アド・音楽院にも学んでいます。ディズニー社は1936年、多岐にわたる作曲以外に音楽監督も受けました。そのため、担当した短編は70本と少なめです。「白雪姫」「ピノキオ」にも参加しましたが、注目されたのは「砂漠は生きている」や「ボクはむく犬」等、1950年代の記録映画や劇場版でした。1985年に亡くなりました。

ポール・スミスは、ミシガン州カラムットに生まれました。ピアノ教師の父に、音楽を伝承した彼は、早くから音楽に没頭していました(スミス家は叔父さんも音楽に携わっていた典型的な音楽家です)。カリフォルニア大学で音楽をマスター、ニューヨークの名門、ジャズ・アド・音楽院にも学んでいます。ディズニー社は1936年、多岐にわたる作曲以外に音楽監督も受けました。そのため、担当した短編は70本と少なめです。「白雪姫」「ピノキオ」にも参加しましたが、注目されたのは「砂漠は生きている」や「ボクはむく犬」等、1950年代の記録映画や劇場版でした。1985年に亡くなりました。

ポール・スミスは、ミシガン州カラムットに生まれました。ピアノ教師の父に、音楽を伝承した彼は、早くから音楽に没頭していました(スミス家は叔父さんも音楽に携わっていた典型的な音楽家です)。カリフォルニア大学で音楽をマスター、ニューヨークの名門、ジャズ・アド・音楽院にも学んでいます。ディズニー社は1936年、多岐にわたる作曲以外に音楽監督も受けました。そのため、担当した短編は70本と少なめです。「白雪姫」「ピノキオ」にも参加しましたが、注目されたのは「砂漠は生きている」や「ボクはむく犬」等、1950年代の記録映画や劇場版でした。1985年に亡くなりました。

ポール・スミスは、ミシガン州カラムットに生まれました。ピアノ教師の父に、音楽を伝承した彼は、早くから音楽に没頭していました(スミス家は叔父さんも音楽に携わっていた典型的な音楽家です)。カリフォルニア大学で音楽をマスター、ニューヨークの名門、ジャズ・アド・音楽院にも学んでいます。ディズニー社は1936年、多岐にわたる作曲以外に音楽監督も受けました。そのため、担当した短編は70本と少なめです。「白雪姫」「ピノキオ」にも参加しましたが、注目されたのは「砂漠は生きている」や「ボクはむく犬」等、1950年代の記録映画や劇場版でした。1985年に亡くなりました。

ポール・スミスは、ミシガン州カラムットに生まれました。ピアノ教師の父に、音楽を伝承した彼は、早くから音楽に没頭していました(スミス家は叔父さんも音楽に携わっていた典型的な音楽家です)。カリフォルニア大学で音楽をマスター、ニューヨークの名門、ジャズ・アド・音楽院にも学んでいます。ディズニー社は1936年、多岐にわたる作曲以外に音楽監督も受けました。そのため、担当した短編は70本と少なめです。「白雪姫」「ピノキオ」にも参加しましたが、注目されたのは「砂漠は生きている」や「ボクはむく犬」等、1950年代の記録映画や劇場版でした。1985年に亡くなりました。

ポール・スミスは、ミシガン州カラムットに生まれました。ピアノ教師の父に、音楽を伝承した彼は、早くから音楽に没頭していました(スミス家は叔父さんも音楽に携わっていた典型的な音楽家です)。カリフォルニア大学で音楽をマスター、ニューヨークの名門、ジャズ・アド・音楽院にも学んでいます。ディズニー社は1936年、多岐にわたる作曲以外に音楽監督も受けました。そのため、担当した短編は70本と少なめです。「白雪姫」「ピノキオ」にも参加しましたが、注目されたのは「砂漠は生きている」や「ボクはむく犬」等、1950年代の記録映画や劇場版でした。1985年に亡くなりました。

ポール・スミスは、ミシガン州カラムットに生まれました。ピアノ教師の父に、音楽を伝承した彼は、早くから音楽に没頭していました(スミス家は叔父さんも音楽に携わっていた典型的な音楽家です)。カリフォルニア大学で音楽をマスター、ニューヨークの名門、ジャズ・アド・音楽院にも学んでいます。ディズニー社は1936年、多



Lady & The Tramp



Briar Rose

ディズニーの音楽家たち

『眠れる森の美女』で音楽責任者となったジョージ・ブランズは、多岐な才能の持ち主でした。ジャズ・トロンボーン奏者で、楽譜をこなし、クラシックからカンタリー音楽まで楽し、歌作りもして、他のスタジオでアニメの音楽を担当していました。それに加え、偶然で気象性性格がスタジオで受け、身長190cm、体重113kgというのはアメリカ人でも目立つ存在でした。1953年に入社した彼は、翌54年秋にスタートしたTVシリーズ『ディズニランド』の音楽スタッフとして活動を開始しました。そして、『デビル・クロケット』のテーマとして書いたデビル・クロケットの唄が、1955年初めに、放送の評判と共に大ヒットすることとなったのです。

ジョージ・ブランズ



ンとマイケルを連れて、ネヴァーランドへ飛びたとうとする歌。
♪海城のくらし♪ オリヴァー・ウォーレスが、アードマン・ペナーと共作した荒くれ男たちの歌。

♪ワニをひやかす♪ ディズニーの宝だったフランク・チャーチルの作曲の歌です。

♪リーダーにつづけ♪ 別名「ザ・ロスト・ボーイの行進曲」。ジョージが『少年たち』のリーダー格になって歌います。ウォーレスが脚本家のウィンストン・ヒプラーとデッド・シアーズの協力を得て作りました。

♪なんでインディアンは赤い？♪ あなたと私のママ♪
♪フック船長はエレガント♪ 3曲ともS・フェイン、S・カーンの作品。ウェンディーが歌う『ママ』が懐かしにふれ印象的です。

〔声の出演者〕

ゴビー・ドリスコール（ピーター・パン）、キャサリン・ビュモント（ウェンディー）、ハンス・コンリッド（フック船長）他

『わんわん物語』（1955）

ディズニーの得意な動物アニメの傑作です。1937年のこと、ディズニーのストーリーマン、ジョー・グランドが、コックス・パニエルが活躍する物語を考えだしました。ウォルトは、注目していた人気野良犬が活躍するウォード・グリーンズの宛編にこの話をドッキングしたのです。シナリオはできたものの、製作は10年以上保留になっていました。が、50年代に入って連続した名作もめだして、ウォルトは自分の意志で動かせるストーリーを作りたくなったのです。そして50年代に台頭したシネマスコープを導入したアニメの第一号作品として創られたのが、この『わんわん物語』。広い画面で、様々な犬たちが思う存分にかけまわってくれるのです。

音楽面では、従来のものとガラリと趣向を変えた作品となっています。作品の企画段階からメスの声に依頼した、ハスキーな歌で人気のベギー・リーがソングライターとしても有能なことがわかり、ウォルトは全編にわたる歌作りも依頼したのです。（そのために、彼女の声の役は主役のレディから脇役へと変更されました）そして彼女のリード役としてヴェテランの作詞・作曲家ソニー・パークが加わったのです。

♪ラ・ラ・ルー♪ ヒロインのレディの副主唱リリング夫婦に待望の赤ちゃんが誕生。お母さんが歌う優しい子守歌です。



●レディは、クリスマス晩の晩にダリング家へやってくる。



●野良犬トラップは出さず、彼の生き方に惹かれて……。

♪ペラ・ノッテ（美しい夜）♪ お屋敷の外に出たレディが野良犬のトラップに出会い、野性的な逞しさに惹かれるラブ・ソング。イタリアン・レストランのトニーにミートボールスパゲティをご馳走になった後、二人は夜の公園でデートします。

♪シャムネコのうた♪ 飼いの留守にやってくるセーラ伯母さんのイジワルな連れ猫、シャム猫のシー&アン。これは彼女らの持ち歌となっています。

〔声の出演者〕

バーバラ・ルディー（レディ）、ラリー・ロバツ（トラップ）、ベギー・リー（ターリン、シー&アン、ペグ）、ビル・ペーコン（トラスティ）、レストランのコック、トニー（ジョージ・ギボット）他

『眠れる森の美女』（1959）

トニー映画が始まって30周年が過ぎ、長い伝統を誇ってきたディズニー・アニメの音楽面も、ここに来て大きく変化の時を迎えました。

『眠れる森の美女』は1950年に着手されましたが、本格化したのは1956年でした。この時に、シネマスコープからデクニラマによる初の70ミリ映画へという変更も行なわれ、完成まで9年もの長大作となったのです。『シンデレラ』と同じペロウの原作に基づき、音楽もロシアのピョートル・イリイチ・チャイコフスキーが1889年に作曲した同名バレエ曲が有効に使われています。



●オーロラ姫のモデルは、かのオードリー・ヘッバーンだという説もある。

●3人のよい妖精は「よきおばちゃん」的な、コミカルなキャラクター。



♪オーロラ姫おめでとう♪ メインタイトルに続いて流れる曲で、姫の誕生を祝します。この後、招かれざる客の魔女マレフィセントが登場して、「姫は16歳になった時、糸車の針に指を刺して死ぬであろう！」と呪文をかけるのです。

♪私は不思議♪ 姫はプフィア・ローズと名を改め、森の中で3人の『よい妖精』たちと暮らします。動物たちを相手に絵が歌うナンバーです。

♪いつか夢で♪ 前曲を聞きつけたのが、森を通りかかったフィリップ王子で、歌はデュエットにまで発展します。ワルツ・テンポにのった美しい曲で、これはサミー・フェインとジャック・ローレンスの編曲。加筆となった傑作です。

〔声の出演者〕

メリー・コスト（オーロラ姫）、ビル・シャーリー（フィリップ王子）、エレン・オードリー（魔女）、ヴェルナ・フェルトン（フローラ）、バーバラ・ジョー・アレン（フローラ）、バーバラ・ルディー（メロウエーザー）他

『101匹わんちゃん』（1961）

ゼロックス・システムをアニメ製作に導入した初の記念すべき作品です。100匹ものダルメシアン犬を並べ出し、その皮をはいてコートを作ろうと企む悪女クルエラ・デ・ヴィルト、盗まれた我が子15匹と一緒にいた84匹、計画破れの大連発を連れて、敵地より脱出を図るボンゴとバーディアの愛と勇気の物語です。



●人間の主人と共に暮らした歴史、さくさくわんわん犬。

♪ケイナイン・克蘭チス・コマーシャル♪ 盗取された仔犬たちが好きなTV番組「サンダーボルト」、を提供する会社のCM、♪町のクルエラ♪ ボンゴの副主唱リチャードはソングライターで、妻のアニタの字のクルエラのことを歌にしました。前曲同様曲はメル・リーヴェン。音楽監督はジョージ・ブランズです。

〔声の出演者〕

ロッド・テイラー（ボンゴ）、リサ・ティヴィス（アニタ）、ベン・ライト（リチャード）、ケイト・パウワー（バーディア）、ペティ・ルー・ガソン（クルエラ・デ・ヴィルト）他

『王様の剣』（1963）

中世イギリスを舞台に若き日のアーサー王が、まだワートと呼ばれていた少年時代の物語。魔法が支配していた時代のこと、魔法使いマリオンと、自称『世界の魔女』マダム・ミムとの対決も楽しい作品となっています。

『王様の剣』ハジタス・フィジタス、『マッド・マダム・ミム』、『こうして世界はまわる』最高に混乱させる書、『ブルー・オー



●「王様の剣」を右から引き抜くことができるのはワートだけ。

ク・ツリー」と、以上3曲は全部シャーマン兄弟が書いたものです。また、彼ら兄弟としては『メリー・ポピンズ』に先立つ初のディズニー・アニメとなった作品でした。

〔声の出演者〕

リッキー・ソレンソン（アーサー）、カール・スウェッソン（マリオン）、アーサー・ウェントワース（マダム・ミム）他

『ジャングル・ブック』（1967）

完成作までは見届けられなかったものの、企画からの全部をウォルトがタッチした最後の作品です。原作はインドのボンベイに生まれたイギリス人作家、ラドヤード・キップリングが1884年に発表したもの。ジャングルを舞台に、動物たちに育てられる少年の物語ながら、恐ろしく『のん気』な話でユーモア感覚抜けたストーリーです。脇を固めた動物キャラクターがいずれも個性豊かで、文字通り『ウォルト・ディズニー最後の大作』と賞讃される作品となったのです。

ゾウさんたちの「ハディア佐マーチ」、キング・ルイと他のサルが歌う「君のようにならない、ハガタカ」そしてこそ友達、ヘビの「信じて欲しい」、ラストの、少女とモーグリが歌う「私のおうち、のら世は、ウォルトお気に入りのシャーマン兄弟が書きしました。最後の曲は「ジャングル・ブックのテーマ」です。



●川の上でプクプク泳いでおしゃべりするバルーとモーグリ。

♪ザ・ベアー・ネセシティ♪ クマのバルーがモーグリと数々の最高に楽しいナンバー、この作品の中核を成す、いかにもハッピー・ゴー・ラッキーなキャラクターの存在を見事に示した傑作でもあります。この歌はアメリカン・モダン・フォークの作者でもあるリー・ギルキソンが書いています。

〔声の出演者〕

ブルース・ライダーマン（モーグリ）、フィル・ハリス（バルー）、セバスチャン・ギボット（ヒョウのバーナード）、ルイ・ブリア（サル王様）、ジョージ・サンダース（人喰いのシャークーン）他



101 Dalmatians



Arthur / Wart



Mowgli



Baloo



Bagheera

TV時代の到来

1920年代からラジオ放送は少しずつ広がり、1930年代、40年代に最も華々しい時代を迎えます。音楽からドラマからお笑い、それにニュースまでラジオに《かじりつく》日々が経きました。

音声だけのラジオに対し、映像も一緒に送り込まれるようになったのがFVで、実録放送は1930年代から始まりましたが、世界に先じてアメリカがTVの時代を迎えるのは1940年代の後半、第2次大戦の後からのことで、1950年代に入ると従来のモノクロ画面から一変しカラー化すら始まったのです。

この辺りのTV時代の到来を、世界に冠たる映画王国ハリウッドは様々な思いで見えていました。映像文化の王者、映画への執念などとは対立意識丸だしの若、あんなオモチャ遊びみたいなスタイルに満足する者は無さそうと冷淡に見る者も、大きく分かれていました(前者に属するグループからは後述の大作主義や、大型スクリーンのシネママシネスコープが登場します)

ところが、ウォルト・ディズニーはそうした映画人たちとは全く別の考えを持っていました。「積極的にTV番組の製作に、のり出すべきだ」と確信していたのです。



★「ミッキー・マウス・クラブ」の撮影。（「ウォルト・ディズニー
創造と冒険の生涯」満洲社刊より）

「ディズニーランド」の放映

こうしてウォルトは、他の映画会社のほとんどがTVを敵対視しているなか、唯一この新しいメディアとの共存共栄を考慮して移したところ。その第1作は、1950年12月のクリスマス番組でして、家に居ながらにしてディズニーのキャラクターに会える。これは呼ばれては立派な番組になり、たいいなる成功を収めたはず。あまりの好評のため、翌1年に同様の番組を用意しなければならなかったはずだが、これには特別プログラムで、ウォルトがレギュラー番組を1つあげるかどうかという別問題でして、しかしディズニーのTV番組は大変な好評で、業界はTVでディズニーを見たいという声はうなぎがとんでいって



↑「ディズニーの素晴らしいカラーの世界」のオープニング。

かを改めて知らされることとなったのです。

こうして1954年10月27日から、毎週水曜日の夜、アメリカ三大ネットワークのひとつABCから『ディズニーランド』のシリーズが始まったのです。ウォルト自らが司会役として登場、彼が生んだ大スターのミッキーやドナルドもまた登場、文字通り『夢のディズニー王国』へと誘ったのです。

この番組ではウォルトの成功の数々と共に、明日へ向けての興味深い展開が示されました。その一つはウォルトが新しく取り組んでいる映画製作の一部を紹介することで、TVを見ている人の関心を高めました。「海底2万マイル」のメイキング、あるいは「わんわん物語」の製作過程、といったようにです。これらのメイキングをTVで製作することは、あまりにも成功し、競争相手の映画会社は、『長い告別曲』とわんわんはどてした。

またTVシリーズのために製作したドラマの「デビー・クロケット」(1954)や「怪盗ソロ」(1957)のシリーズでも大変に評判がよく、改めて劇場用映画として公開したほどです。またスタジオの作曲家ジョージ・ブランズが作った主題歌「デビー・クロケットの夢」は、多くの歌手が競い合って歌うほどの大ヒットとなりました。

しかしタイトルが「ディズニーランド」とあるように、ウォルトの想いは建設中で具体的に形となっていない。アナハイムのテーマパークに限りなくこそがれ、それは番組の内容へと反映されました。テーマパークの主要な4部 ① ② ③ ④ に、TV番組のコンセプトもファンタジーランド、フロンティアランド、アドベンチャーランド、トゥモロランドとして形成されて行ったのだ。

その後、「ディズニeland」は「歌のバレード」「ドナルド
ダックの生涯のうしろ」「ミッキーマウスの冒険」といった特集
送り、好評のうちにシリーズを更新していきました。1989年より
「ウォルト・ディズニー・プレゼンツ(ウォルト・ディズニ
の贈りもの)」と改め、1991年の秋の新シリーズからNBCにネ
ットワーク(放送局の系列)を移し、タイトルも「ウォルト・
ディズニー」のネーミングより一カ階、下として、他に先がけて
カラー放送には腰を入れた(以前よりディズニーには黒い

をカラーで行っていましたが)。

NBCを通じての放送は、20年も続くという記録的なロングランとなりました。カラーとなって番組に早々にデビューしたが、ドナルドのヨーロッパの親戚という老人、ルードヴィッヒ・フォン・ドレイクというキャラクターでした。ウォルトと彼との画面での《かけ合い》もニーモアなっぷりでした。

そして、ウォルトじき後もディズニーはTVに力を入れ続けています。1980年代には、「ディズニーのマジカルな世界」という新シリーズを創出し、これに現在のボブ・マイケル・アイズナ がウォルトに代わり司会役をつとめるようになりました。また独自のTV局づくりにともみ、1日中ディズニー映画を流すという、急進的であったディズニー・チャンネルは1983年4月から放送を開始してロングランとなっています。

ミッキーマウス・クラブ

ウォルトが手がけたTVシリーズで忘れられないのは、「ディズニeland」より1年遅れて放送された「ミッキー・マウスクラブ」でしょう。最初のヴァージョンは1985年秋から4年間 にわたって放送されました（その後、同番組は1977年にカムバックを果たし、新しいキャストで'89年までの大ロングランとなっています）。新しの（お子業）プログラムを、ウォルトが本気で作ったところが成功の秘訣となりました。

この「ミッキーマウス・クラブ」はアニメのスーパースター、



↑「ミッキー・マウス・クラブ」のスター、アネット・フアンセロ。

ミッキーマウスを中心としたものですが、ディズニーお得意のアニメを放送する以外に、スタジオからのライブ（生放送）が大評判となったのです。

放送には、古典文学「三銃士」(The Three Musketeers) からのヒーロー、17世紀ごころの近衛兵(Musketeers) を今日のにもじり、ミッキーマウスの親衛隊、大のマウスファンという意味でマウスケティーズ(Mouse Keteers) というウルト・ディズニアーではないうる新造語のと、多くのファンが参加して番組を盛りあげた。彼らはミッキーのシンボルである丸い耳の形をしたキャップ(帽子) マウスイヤーズ・キャップ」をふり、名刺ともにミッキーマウス・クラブのクラブ員となつた。

オープニングは「ウォルト・ディズニー・アンド・ミッキー・マウス」プレザント・ギフ、「ミッキー・マウス・クラブ」と二種類のタイトルが出て、おなじみの「ミッキー・マウス・マーチ」が流れてきます。この順戦で陸気なマウスは、浮きたつ楽しみにあふれた傑作ナンバーでもありますが。作詞作曲は番組のレギュラー、そのソノザク・ディズニーの一人であるジミー・ドッド(右手でありソングライターでギターの人)にです。

このマウスケティアーズのストーリーは、ジミーのほか4人もいました。もともとディズニーのアニメーターであった大橋で太ったオジさん、ロイ・ウィリアムズもその1人で、彼は時にゆい、お得意の絵筆（や木炭というべきでしょう）を使って、ミッキーの描き方を教えてくれます。また、可愛らしい女の子のイラスト格として、アネット・フレンチオコがいました。

アネットこそはTVシリーズ「ミッキー・マウス・クラブ」を
通じ、ミッキーと共に大変な人気を集めるアイドルとなつた才
性です。デズニースのレコード部門であるデズニース・ランド
・レベルから1957年に、ヤング向けの歌手としてデビューし
ました。ポップシンガーとしての成功は、翌58年に録音され
た「トルボール」で、59年1月からヒットし、全米でベスト
10入りを果たした。この歌は後にデズニース・スタジオのとな
ったシャーマン兄弟の作品でした。

アネットは、2人から成るマウスケティアーズの代表格として、「ミッキーマウス・クラブ」の「クロージング・テーマ」(作者はやはりジミー・ドッド)を歌っていますが、初めてソロで歌ったのはキュートな彼女らしい「恋人なんてわからない」でした。

また、「ミッキーマウス・クラブ」は曜日によって楽しい内容が構成されていました。

月曜日— キンガム帽を手にして「音楽を楽しむ日」— Fun with Music Day、火曜— フォーマル・ドレスに身を固めた「ゲスト・スターの日」— Guest Star Day、水曜— 「ジャマタジア」の口スチーマーで「飯でも起きて、もう一日」— Anything Can Happen Day、木曜— 音楽隊の隊長となり「サーカスの日」— Circus Day、そして金曜はカウボーイ姿で「タレント集合日」— Talent Roundup Day、となっています。

ディズニー・テーマパークの夢世界



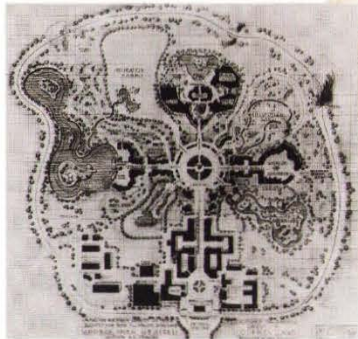
夢の王国

ウォルト・ディズニーは常に自分の夢を追い続けていた。それは彼が現状には満足していない、もっと良いものが、もっと面白いものが、もっと楽しいものが、と常に「もっと、もっと」と先を目指す、きわめて前向きな性格によるものだったのだ。アニメから出発し、劇場映画とTV番組を含めた映像を中心としたエンタテインメントを極めた彼のウォルトは、例によって「もっと先」に素晴らしい世界があるのでは、とある日ふと思ったのだ。こう述べると、彼が全て思いつきで行動していたように見えますが、しかしそれは常々ウォルトが思い描いていた《夢》と一致することでした。

それは1940年代初期のことです。ウォルトの二人の娘、ダイアンとシャロンがまだ幼い頃のことでした。休日になると、これが《おひるの目》ということに決まっていた。良き日々、ウォルトは二人の娘と連れ立って近郊地へとお出掛けののでした。彼女たちをメリー・ゴーランドに乗せ、ベンチに座らせた彼は、ピーナッツを眺めながら見守っていました。独りで座っていた時、パパ、ウォルトは考えたそうです。彼女たちのために、もっと清潔で安全で魅力に満ちた、超特級のファミリー・パークを作つてやりたいいな——と。

これが後にディズニーランドとなつて実を結ぶのですが、実現するまでには約15年の歳月を必要としたのです。ウォルトは《マジカルな小型の分園》を、最初のうちは考えていたようでした。彼は、頭の中に開設したばかりのディズニー・スタジオ（バーバンク）の隣りに文字通りの小公園を、思い描いていました。スタジオはリヴァーサイド通りに置いた三角形の土地、12エーカーを持っていたこともあって、そこをミッキー・マウス・パークにしようとしたのです。

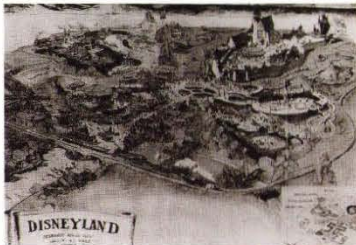
こうまで具体的にになったのは1948年のことでしたが、当時のスタジオの本命は、パークの建設よりアニメ製作をもって、《戦



↑マビン・デビスによるディズニーランドの原案図。
（ウォルト・ディズニー—創造と冒険の生涯—講談社刊より）

後の復興》を早く果たすことでした。経営面を受けもっていたウォルトのロイですら、「第がいろいろと申しておりますが、遊園地を建設、運営するというよりはむしろ、その中にこんなものがあつたらいい、という希望を述べているのです。当人にこの企画を実行するだけの資金はございません」と語ったほどだったのです。

しかしウォルトの夢はもっとも大きく膨らみ、もはや引き返すことができなくなってしまうのです。こうして1952年、彼はテーマパーク建設を目的とした別会社を設立したのです。本名ウォルト・イライアス・ディズニー・エンタープライゼス、WED（ウェド）エンタープライゼスがこれです。この会社はウ



↑ハブ・ライマンによるディズニーランドのプラン・スケッチ。

ォルトの個人企業でしたが、後のディズニーランドを初めとする彼のテーマパーク構想の成否も、その発案につけ、1955年にウォルト・ディズニーの会社の一部門となつたのです。そしてウォルト・ディズニー・イマジニアリングとして、今日ではパーク事業の心臓部として、大発展を遂げています。

そもそも1950年代の初期、つまり戦後の復興期にあつて、テーマパークというウォルトの考え方は、まったく周囲の考えから受け入れられていません。イスに置かれて閉居することになっている場所を、様々なテーマを設けて、それぞれのアトラクションゾーンに入つて楽しんでもらう、というアイディアは当時の大衆にとって最も奇妙な、カマフラードで、まったく存在していませんでした。

ウォルトは彼の偉大な想像力と努力をこらして立体的な次元の世界へ、そしてアニメで描いたあの世界を現実の生きた世界へと、つまりファンタジーの世界を現実の世界へと変換しようとしたのです。そしてそれは全く新たな都市と隣接にあふれた近代的なファンタジーへと変換することとなりました。

そのためには、テーマパークの人間性にはトータルに《ディズニー・ショー》、《ディズニー・マジック》を充分に味わってもらえるよう、パークの内装はもとより、その周辺の遊樂作りも考慮されたものでなければならなかったのです。パークの大きさは驚大で、そこに収められるモノ——建物、景観、飲食物、売られる商品、アトラクション、エンタテインメント——を初め、色彩感覚、音楽、効果音、さらには従業員にいたるまで、

《ディズニー・タッチ》にあふれたものに統一する必要があるのです。

これは映画を作ることはもとより、半歩あった遊園地を作るという考えから180度の転換が必要で、革命を断つような発想でした。ただひとつ、ウォルトの発想が、その余りにも独創的な考え方だけが、夢のような遠大な計画を実現させたのです。「世界中どこを捜してもディズニーランドのようなパークは絶対に見あたりません。ユニークであるからこそ素晴らしい。新しいエンタテインメントなのです」とウォルトは、当時のディズニー社の最高責任者に説明したといわれています。

ウォルトの私的な住居は、ディズニーランドの近郊地としてオレンジ・カウンティを挙げました。カリフォルニアの僻地といはいびとオレンジ郡こそ、最も理想的な土地だったのです。こうしてロサンゼルス市の中心部から南へ約40キロ行ったアナハイムと決められたのです。しかし、パーク建設のための資金をひねり出すのは至難の業でした。遠方に移住したウォルトは自分の別荘を売り払い、更には生命保険を担保にして借金をしましたが、それとて当分の活動資金には足りませんでした。

本格的な外部資金を得るのにウォルトが考えたのがTVでした。巨大なネットワークの親会社、ABC TVと交渉の末に、週一回、1時間番組を向こう7年間にわたりディズニーが製作することで、大きな援助資金を引き出したのです。このTV番組が1954年秋からスタートしたもので、その名のズバリ原名も、「ディズニーランド」でした。

こうして1954年8月から急ピッチでパーク作りがスタートしました。そこには生息するところのウォルトの独断性が反映されています。

①大きなパークなのに出入口は《たった一箇所》だけ（入園者の方向感覚を失なわせず、入園から退園までを一貫性のある体験とすることが出来る）。②パークの中央を《輪》に構成する（輪となる車からは、常に循環して望みの《国》へ行ける）。③遠近法・路内歩きが（例えばメインストリートの道沿の脇は入口近くの方が広く、正面に見える城は《遠く遠方》に見えるように感じられる）……といった具合です。

そして神祕性と濃密に最も重点が置かれたのです。

「ディズニーランド」オープン

完成後、オープンに先立つ1955年7月13日、ウォルトと妻のリリーとの結婚30周年を祝うパーティーが、ディズニーランドで行なわれました。ウォルトには結構深いものだったことにはがいりません。そして同年7月17日に正式にオープンしたディズニーランドは、当日だけで3万人以上のゲストにあふれ、文字通り《ごった返し》でしたが、一方このオープニング・セレモニーの模様はTV番組「ディズニーランド」を放送しているABCを通じて、特別番組「ディズニーランド」になって、全米至るところに生中継され、両山の人たちが

見守っていたのです。

こうした宣伝の力もあって、ディズニーランドはオープンして7週間に入場者数が100万人を越えていました。そして15か月が経過した1956年10月には、500万人の人たちがゲートを通つたことを知らされたのです。強気に《おのれが夢の実現》を説いたウォルトの、予想をはるかに上回る、5倍増以上の《本当に嬉しい事実》であつたのです。そしてその後もディズニーランドの人気は増加の一途をたどる一方で、1961年4月に2500万人、満30年たった1985年8月には2億5000万人の入場者を迎えたのです。

オープンした頃のアトラクションは18で、今日は80以上にまで増加し、ますます充実してきました。常に少しずつ手直しが行なわれ、アトラクションの中味も入れ替わっているものも少なくありません。しかし35年が過ぎていても変わっていないのは、入つてすぐに目にするメインストリートの風景です。20世紀初期のアメリカの小さな街を再現したメインストリートは、ウォルトが少年時代を過ごした彼のホーム・タウン、ミズーリ州マーセリンがモデルとなっています。左手の脇、シティ・ホールがありますが、その隣りに消防署が何気なく建っています。この建物こそは、ディズニーランドを建設中にウォルトがアパート代わりに暮らしていたところだったのです。

ディズニーランドの成功はアナハイムの町そのものにも反映されました。1955年のオープン時分にあったホテルは18軒、モーテルは2軒で、合計した部屋数は《わずか》77軒でした。それが今日では150軒以上のホテルが立ち並び、総数で7000部屋以上にまで膨れ上がっています。

ディズニーワールド

この成功を横目にしながら、もうウォルトは次のことを考えていました。例によって彼の《もっと大きく、もっと面白く、そして》の精神がそうさせるのでした。しかし1963年、彼の夢を叶えてくれる土地はディズニーランドの隣地には《もはや無い》ことを知らされるのです。

「それならば」と、ウォルトと彼のスタッフはディズニーの夢のステージを展開する広大な土地を捜し始めたのです。そして見つけた場所がフロリダのオーランドでした。手に入れた土地は27500エーカー。（これはニューヨークの中心部マンハッタン2倍、東京の山手線の内側の1.5倍という、これまた想像を絶する広さです。ちなみにディズニーランドは80エーカー、100エーカーあるパークینگ場を加えても、オーランドの方が150倍もの広さがあります。）

残念なことには1960年12月にウォルトは亡くなりましたが、生前に彼は、オーランドに開くウォルト・ディズニー・ワールドの完璧なマスタープランを立てていました。それは《もう一つのディズニーランド》を作るのではなく、それを超えた全く新しいリゾート地、ヴァケーション・キングダムを生み出すことだったのです。



↑パークのメインストリートを走る路面のレール。



また、単に遊びまわるだけでなく、将来へ向けた科学的な目を育てるべく、未来社会を先取りしたパークを創りだそうとしたのが、エポコット・センターです。これまたヴォルトらしい新造語で、EPCOTとは未来都市の実験的モデルExperimental Prototype Community Of Tomorrowの略名です。

1971年10月1日にオープンしたウォルト・ディズニー・ワールドは、マジック・キングダム・パーク（ディズニーランドと同様のもの）に加え、1982年に念願のEPCOTセンターをオープンしました。そして1989年には全く新しいテーマパーク、アニメと映画ファンが大喜ぶるディズニー・MGMスタジオが開設されたのです。

そして、パークの舞はアメリカに留まらず、世界へと広がっていきます。

広くアメリカ大陸の東（フロリダ）と西（カリフォルニア）にあつたウォルト・ディズニーのテーマパークは、1983年には東京。そして同年にフランスのパリ郊外にヨーロッパ版が作れる。ますます「マジカルな輪」は大きく広がつていく。
 映画、というのは作り易いから、作者の手から離れていくしまゝ。でもディズニーには永遠に未完の作だ。だからこゝで常々完成することが出る。生き物のうに成長し続けるからだ。よいといふところが伸ばされ、パークは年ごとに美しくなる。樹木がぐんぐん大なるように、パークはもっともっとと素晴らしいつて行く。これはホクにとって、実に大きな意味を持たせてくれたんだよ。

かつてウォルトは、今までにないほどの目標の大きさをあたかも再確認するように、娘のダイアンに話っています。

「ディズニーランド」の音楽

ディズニーランドは「地球上で最も幸福な国」として賑わっている通り、至るところで楽しい場面にふれることが出来、まったく異なる音楽や楽しめる場所なのです。多くのアトラクションに加え、映像と音楽を存分に駆使したショーやパレードが、あちちでも、こちらでも、水面上や空中に至るまで華々しく展開されています。まるで毎日がフェスティバルの様子なので、これから、誰かが「世上の幸福」と感じてください。

この『四時』を聴くのに重要な役役を果たしているのが、
『音楽』というよりも通詞であるが、もちろん「デズモンド・フンド」
を筆頭に、ウォルト・ディズニーが留り出したデマーク・パークは、
彼のアニメーションに、いつも音楽が囁き語っている。ミッキー
マウスから「白雪姫」、「ピノキオ」……そして最近作の「リトル
・マーマレード」、「美女と野獣」、「アラジン」に至るまで、各
種の人物やアラクションが歌われている。そして数々の（おな
じみのメロディー）が表でられるのは当然です。これ以外に、新
しいアラクションはそれに応じた音楽を持ち、またパーク内
はまるごと音楽と建築がそれによってなっているのです。

その代表としてあげられるのが、ディズニーランド・マーチング・バンドでしょう。20名から成る名物バンドは、250世もの

レパートリーを拡張して、語面にしてリーダーの指揮棒の動き次第で「たちどろき望みの油」を演奏して以来、といわれています。このバンドは1965年のオープン以来、演奏しあがりのパワ内を進行し、彼らが書きまわった音盤は5000キロに達している、といわれています。コンサート数も信じられないくらいにふえ、1982年7月7日のデズニャーランド30周年記念日、何と大々4回分の記念コンサートをメインストリートで演奏し、大変な騒動を受けたのです。

このバンドの音楽監督をつかまえて、ある日ワルトはこんなことをいったそうです。「口笛を吹けないような者は、演奏することはなほよい。つまり覚えにくい曲や、難解な曲よりも、シンプルで聞いたら思わず口ずさみだくなるような曲を演奏してレパードリーにしてみよう」と、ワルトは伝えたかったのです。そしてさらにノスタルジックでメロディアスな曲こそが、彼の望みであり、どこか懐かしい音楽に満ちていなければならない。

ラグタイムピアニスト、パーパーショップ・カルマット（男
声4人組のメカフ・コース）、パンジョーを以て基盤とし
テノール・キングス、スリングガムマウツ・フィデル（小
黒ウサギオリング）を弾くブルグワース・ボーイズ、トラディ
ショナルなテキサス・バンド・バンド、リキソフオン・カルテ
ット（ツブラ）、アルト、テナー、バリトンの4人組がいた
た venue が、時に居ては街角や店内で演奏をします。彼らはプロ中
のプロで、ジャズ・ミュージックの会社はハウダッドに最も多
くのミュージシャンを雇っているといふのを納得させてあげることです。

このほかに高校や大学生のバンドがブークで演奏。アメリカ国内だけでなく（ディズニーランドとディズニー・ワールド）年間に9万人の学生音楽家がブークを読んでいるといわれています。またバンド数としてはディズニーランドは年間800、ディズニー・ワールドでは年間300ものゲスト・バンドが訪れているそうです。だから毎日のように違うゲスト・バンドに出会えるという魅力がいよいよディズニー・メロディアス・ミュージックナット



い別へに加え、各種のアトラクションに応じて新面が用意されています。これがまた動物の魅力を引き出し、シネマファンやTVファンのほかに、新たにパークファンを作りだします。ここにもオリジナル曲を提供するところが、ディズニーの素晴らしいショーシップの表われといえるでしょう。



●魅惑の子キルーム

1955年にアドベンチャーランドに登場した南国の鳥たちのショーです。夫は今の鳥たちは主賓を宣旨付け替えて、使臣に
 グレックは先づ第一ディード・ア・エントロウスを初めて着
 入したものでした。先客はウォルト・ディズニーで、ヨーロッ
 パ旅行でこの地へ「良か、がセントにたのむので。ゼン
 マで行った時のメグと今もここに羽生た、なかうで。
 かごの中の鳥は善美に合わせつつチパンをバクバクと動かす
 のです。これを分鏡し、最新のエレクトロニクスをふかしたものに
 のでトラウニングで、音はジャーマン・スグが響きまゐる。

●イツツ・ア・スモール・ワールド

1965年のニューヨークの万国博覧会のためにディズニーが制作したプラトナグラフで、これが評判となり1965年ファンタジーランドに移し、今日まで変わることもない人気を得ています。このチャミングのうたいディズニー曲師チャーマン兄弟のもの、販路を離れて最大のヒットとなったのです。また同じニューヨークの博覧会に製作した「リリック」は最初の演奏、オメガ・アポロ・アニマトロニクスでの成功後、ファンタジーランドのディズニーストリートのプラトナグラフの名称となりました。

●カリブの海賊

1966年に新たに作られたニューオリンズ・スクエア。そこに1967年に登場したアトラクションです。ちよびりスリルのあるグルーピングが楽しめるもので、ディズニーお得意のオーティオ・アニメトロニクスの演劇たちがコーラスを揃かせるのが「ヨーホー」です。この作曲はジョージ・ブランズでした。

●進歩の回転木馬

1967年、トッモローランドは5つの新しいアトラクションを加え、**《新装開店》**させましたが、その時にデビューしたアトラクションの一つです。もとは1964年のニューヨーク万博の「**進歩の国**」のふちめのもので、それに手を加えてディズニーランドに移したものです。この名称もシャーマン兄弟のもですが

今、このアトラクションはフロリダのパークに残っています。

●アメリカ・シングス

「カリブの嵐」や「魅惑のチキルーム」で見られるオーディオ・アナログ・ディスクとはウォルト・ディズニーが誇る「想像力」を存分に活かせる技術者イマジニアリングの成果である。その中でも、最大のものは10体のオーディオ・アナログ・ディスクを駆使したコミカルなレビュウ・アトラクションで、1970年、ディズニーランドのトウモロコーンランドにオープンして14年、間もロンドンに上りてきた。いつかは日本橋本町にふるやオマージュが、音楽センスも抜群、口舌を奪われるやがての椅子と取りました。また他にオーディオ・アナログ・ディスクの成果として、「ミック・マウス・レヴュー」、「カントリーベア・ジャンボリー」のショーがあります。

●メイン・ストリート・エレクトリカル・バラード

後のディズニーランドを驚かすに次がない人気アトラクションです。最初に登場したのは1979年のことでしたが、これと共により大急ぎ、ショーの水準をあげて是も楽しめるパレードとなったのです。ウォルト・ディズニーの素晴らしい名作キャラクターを集めた大急ぎのもので、マジカルモーターのものがなっています。テーマ曲に何故か変更されていますが、1979年のものが最新のエレクトロニクス・サウンド・マシンで奏るシンセサイザーが喜ばしいもので、その新機組より時代を先取りしたものにこそと評判になったのです。



ウォルト・ディズニーのテーマパーク構想の、いわばオリジナルともいえるアナハイムのディズニーランドを中心に述べられました。しかしマジカルアトラクティヴな喜劇の出現、オリジナルのディズニー・ワールド、そして海外での名譽第一号テーマパークである東京ディズニーランド、更にはフランスに新しく出来たユーロディズニーでも起きている。そして誰もが、母島のファミリー・ミュージカル・エンターテインメントを満喫できるもの。これこそがウォルトの、そして20世紀アメリカ人の夢と見なされます。でもそれは、今日明日と、ウォルトの夢に代わって、ちっとも早くなく、るようになっている。お宝にはまだ生きている。



◆ディズニーランドの一番公開初日（1955年7月）。子供たちを迎えるウォルト。
（『ウォルト・ディズニー—創造と想像の生涯—』講談社刊、より）





●「ホール・ニュー・ワールド」で飛翔するアラジンとジャスミン。



●バラード「愛を感じる」が溢れるシンのバリエーション。

トブレンド・ライク・ミー♪魔法のランプの精ジーニーが歌うもので、声の主ロビン・ウィリアムズのセンスが光ります。
♪アリ王子のお通り♪ジーニーのおまけで王子様となったアラジンの、豪華華麗なバラードです。この上巻3曲とも、アッシュマン＆メンケンが作曲で、素晴らしいコンビの最後となりました。
♪ホール・ニュー・ワールド♪ジャスミン姫を魔法のカーペットに乗せ、世界中を飛びまわるアラジンが歌うもので、歌声の主ブラッド・ケーンとリー・サロンのデュエットがまた口マンチックな雰囲気をもたせています。この歌はアッシュマンとメンケンが作曲で、ロビン・ウィリアムズ（ロビン・ウィリアムズ）の作詞、メンケンが作曲、アメリカのヒットバラードと並ぶ1位となったのです。

《声の出演者》 ロビン・ウィリアムズ（魔法の精ジーニー）、ブラッド・ケーン（アラジン）、リー・サロン（プリンセス・ジャスミン）、ジョナサン・フリーマン（ジャファール）
♪ライオン・キング、(1994) 時の流れは早いものです。1993年秋は、ウォルトとロイの兄弟がハリウッドの東に小さなスタジオを設立して70周年です。同様に、ウォルトが創り出したスーパースター、ミッキーも65回目の誕生日を祝いました。「アニメのミッキー」ディズニーと呼ばれるほど、ウォルト・ディズニーのアニメとミッキーは関係が深いのです。ミッキー以来、ディズニーは「動物アニメ」というイメージを強く打ちつけられました。確かに、『白雪姫』以降の長編アニメに登場しているのは、大小問わず、実に様々な動物たちが登場して大活躍をしてくれています。

しかし、意外なことに登場するキャラクターがすべて動物という長編作品は少ないです。『パンビ』はディズニーの最高傑作であるばかりか動物アニメの最高傑作で、ディズニー中唯一、「愛を感じる」動物たちばかりの長編アニメです。動物ばかりという点、『ロビン・フッド』が思いつくかもしれませんが、こちらは元来、人間のキャラクターをそのまま動物におかして作られたもので、彼らは皆、2本足で歩き回っています。ということは『ライオン・キング』は『パンビ』以来、実に半世紀ぶりの「オール・アニマル・キャスト」のアニメであるわけです。王となるべき王子の獅子とその母親、親と子の絆、生命の尊厳、作品の根幹を成すテーマも、2作品に共通しています。ただ、大きな違いは『ライオン・キング』が復讐劇的な要素を多く含んでいる点でしょう。オリジナル・ストーリーとして解りあげられた作品ながら、シェイクスピアの古典『ハ



●「王様になるのが待ちきれない」が溢れるシンのバリエーション。

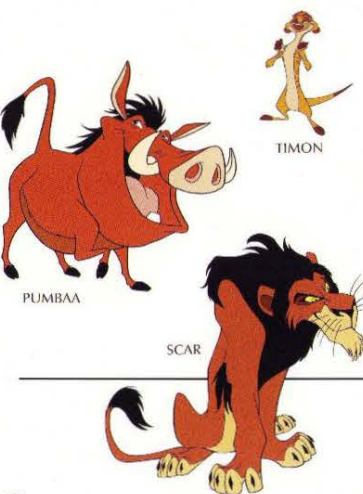
ムレット」に影響を受けて、主人公シンバが父を暗殺した叔父を倒すというドラマチックな物語を形成しています。
『ライオン・キング』はまた、最初のディズニー・アニメを見事な成功させた最強のスタジオウォルト・ディズニー・カンパニーが単独手がけた最後の作品でもあります。公開された1994年だけで、全世界で7億ドル近い興行収入を上げた。史上最高のアニメとなりました。音楽は『アラジン』のティム・ティンバランドが中心となり、1970年代のロックスター、エルトン・ジョンとの黄金コンビにより、信じ難い名曲を生み出しました。
♪サークル・オブ・ライフ♪ジャングルに新しい生命が誕生したことを祝う歌です。大自然の教え。生きる喜び、真実と愛情……。この歌は、作品自体の大きなテーマを、アフリカン・コーラスのダイナミックでスピリチュアルな魅力を盛り込んだ音と迫力で、昇華に表現しています。
♪王様になるのが待ちきれない♪ジャングルの動物たちを喜ばせて、主人公シンバの息子シンバが歌う。ゴージャスなミュージカル・ナンバーです。まだまだ遊び盛りで無知なシンバの天真爛漫な楽しさが溢れています。

♪準備をしておけ♪王爺ムファサの遺言を企み、弟ライオンのスカーがハイエナたちに指示を与える恐ろしいナンバーです。歌うのはアカバミ、ジャズ、シェレミー、アイアンズ。
♪ハクナ・マタタ♪意気消沈、押し潰され、自信喪失……。失策のどん底にあるシンバを励ます歌で、「くよくよするなよ」という意味のタイトルです。ジャングルの陽気なコンビ、バンバとティモンの傑作ナンバーです。



●「サークル・オブ・ライフ」が溢れるシンのバリエーション。

《声の出演者》 マシュー・ブロードベント（シンバ）、ジェームズ・アール・ジョーンズ（ムファサ）、シェレミー・アイアンズ（スカー）、ウェビー・ゴールドバーグ（ハイエナのシンジ） 他



PUMBAA

TIMON

SCAR

Disney's
MUSIC
OF
DREAMS 解説書

1995年6月10日 改訂第2刷
発行・発売：株式会社ポニー・キャニオン
東京都中央区銀座2-1-1 1F104
制作：株式会社ヤマノミュージックメディア
東京都渋谷区松丘町8-27 1F150

© The Walt Disney Company

